

2016（平成28）年

沖縄県感染症発生動向調査事業報告書

沖縄県保健医療部地域保健課
沖縄県衛生環境研究所

はじめに

沖縄県の感染症発生動向調査事業の推進につきましては、一般社団法人沖縄県医師会をはじめ、定点医療機関など関係者の皆様方に多大なご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施しており、感染症の発生動向を継続的に把握し、その分析を行い、情報を公表することによって、感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

さて、平成 28 年を振り返りますと、国内各地で麻しん患者の発生報告があり、その多くは、特にアジアの国々への渡航歴が確認されています。本県では幸い、麻しん患者の発生はありませんでしたが、観光立県である本県では、いつ輸入症例が発生しても不思議ではありません。有効な対策であるワクチンについて、小児では定期接種の受診と、成人では罹患歴及び接種歴が不明な方は接種されるよう、呼びかけを行っているところです。

また、県内では、国内でも本県での発生が多いレプトスピラ症や、宮古保健所管内での発生が続いているつつが虫病が、統計を取り始めて以降、最多の報告数を示しました。さらに、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の県内初事例が確認されています。レプトスピラ症は病原体に汚染された河川での遊泳などにより、つつが虫病及び SFTS は病原体を持つダニに刺咬されることにより感染します。本県は、観光客を含め、野外での活動機会が多いことから、県民並びに関係機関へ注意喚起を行うなど、対策を進めているところです。

本県としましては、引き続き関係機関と連携を図りながら、患者情報等の収集・解析・情報還元を積極的に行うとともに、本事業の推進と感染症対策の強化に努めて参ります。関係機関の皆様方には、今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

沖縄県保健医療部地域保健課長

目 次

感染症法における届出対象疾患一覧	1
I 事業の概要	3
(1) 保健所別定点数（県内）	4
(2) 報告週対応表（2016年）および定点種別定点数（全国）	5
(3) 感染症発生動向調査事業定点医療機関一覧（県内）	6
II 報告の概要	7
1 全数把握感染症（一～五類:83疾患）の報告状況	
(1) 腸管出血性大腸菌感染症（2）つつが虫病（3）デング熱（4）レプトスピラ症	7
(5) 梅毒	8
2 五類定点把握感染症（週報19疾患、月報7疾患）の報告状況	
(1) 週報	
ア インフルエンザ / 小児科定点	8
イ 眼科/基幹定点	8
(2) 月報	
ア 性感染症(STD) / 基幹定点	9
3 週別患者発生状況	
(1) 報告数一覧表（沖縄県）	11
(2) 報告数一覧表（全国）	11
(3) グラフ一覧（沖縄県）	12
(4) グラフ一覧（全国）	15
4 月別患者発生状況	
(1) グラフ一覧（沖縄県）	18
(2) 報告数一覧表（沖縄県）	18
(3) グラフ一覧（全国）	19
(4) 報告数一覧表（全国）	19
III 定点把握対象 五類感染症（週報・月報）発生状況	
1 週報	
(インフルエンザ/小児科定点)	
インフルエンザ	21
RSウイルス感染症	24
咽頭結膜熱（プール熱）	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28
感染性胃腸炎	30
水痘	32
手足口病	34
伝染性紅斑	36
突発性発疹	38
百日咳	40
ヘルパンギーナ	42
流行性耳下腺炎	44

(眼科定点)	
急性出血性結膜炎	46
流行性角結膜炎	48

(基幹定点)	
細菌性髄膜炎	50
無菌性髄膜炎	52
マイコプラズマ肺炎	54
クラミジア肺炎	56
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	58

2 月報

(性感染症(STD)定点)	
性器クラミジア感染症	60
性器ヘルペスウイルス感染症	60
尖形コンジローマ感染症	60
淋菌感染症	60
疾患別報告数の年次推移	61
性別・年齢別患者報告数	62

(基幹定点(薬剤耐性菌))	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症	64
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症	66
薬剤耐性緑膿菌感染症	68

IV 資料編

1 各表

表1 疾病分類別報告数(沖縄県)	71
表2 疾病分類別報告数(全国)	74
表3 疾病別、年齢別区分による比較(週報・沖縄県)	77
表4 疾病別、年齢別区分による比較(月報・男女)	78
表5 疾病別、年齢別区分による比較(月報・男性)	78
表6 疾病別、年齢別区分による比較(月報・女性)	79

2 全数把握感染症(全医療機関報告・2016年1月1日～12月31日)

(1) 一類感染症	80
(2) 二類感染症	80
(3) 三類感染症	94
(4) 四類感染症	96
(5) 五類感染症	100

3 定点把握対象 五類感染症（週報および月報）

感染症発生動向調査システム 警報・注意報の解説	109
-------------------------	-----

(1) 週報

(インフルエンザ/小児科定点)

インフルエンザ	110
RSウイルス感染症	112
咽頭結膜熱（プール熱）	114
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116
感染性胃腸炎	118
水痘	120
手足口病	122
伝染性紅斑	124
突発性発疹	126
百日咳	128
ヘルパンギーナ	130
流行性耳下腺炎	132

(眼科定点)

急性出血性結膜炎	134
流行性角結膜炎	136

(基幹定点)

細菌性髄膜炎	138
無菌性髄膜炎	140
マイコプラズマ肺炎	142
クラミジア肺炎	144
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	146

(2) 月報

(性感染症(STD)定点)

性器クラミジア感染症	148
性器ヘルペスウイルス感染症	149
尖圭コンジローマ感染症	150
淋菌感染症	151

(基幹定点(薬剤耐性菌))

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症	152
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症	153
薬剤耐性緑膿菌感染症	154

4 病原体検出状況

表1 年別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2014-2016年）	155
表2 月別・疾患別検査件数及び病原体検出数（沖縄県：2016年）	156
表3 検出病原体一覧（沖縄県：2016年）	157

V 参考資料

結核の発生動向（2016年）	159
腸管出血性大腸菌感染症の発生動向（2016年）	161
レプトスピラ症の発生動向（2016年）	164
後天性免疫不全症候群（HIV感染者／AIDS患者）の発生動向（2016年）	166
梅毒の発生動向（2016年）	168

感染症法における届出対象疾患一覧

(平成28年2月15日現在)

1 医師による届出対象疾患

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」

一類

- | | |
|-----------------|-------------|
| (1) エボラ出血熱 | (5) ペスト |
| (2) クリミア・コンゴ出血熱 | (6) マールブルグ病 |
| (3) 痘そう | (7) ラッサ熱 |
| (4) 南米出血熱 | |

二類

- | | |
|---|---|
| (8) 急性灰白髄炎(ポリオ) | (12) 中東呼吸器症候群
(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る) |
| (9) 結核 | |
| (10) ジフテリア | |
| (11) 重症急性呼吸器症候群
(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) | (13) 鳥インフルエンザ(H5N1) |
| | (14) 鳥インフルエンザ(H7N9) |

三類

- | | |
|------------------|------------|
| (15) コレラ | (18) 腸チフス |
| (16) 細菌性赤痢 | (19) パラチフス |
| (17) 腸管出血性大腸菌感染症 | |

四類

- | | |
|---|------------------------------|
| (20) E型肝炎 | (41) デング熱 |
| (21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む) | (42) 東部ウマ脳炎 |
| (22) A型肝炎 | (43) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) |
| (23) エキノコックス症 | (44) ニバウイルス感染症 |
| (24) 黄熱 | (45) 日本紅斑熱 |
| (25) オウム病 | (46) 日本脳炎 |
| (26) オムスク出血熱 | (47) ハンタウイルス肺症候群 |
| (27) 回帰熱 | (48) Bウイルス病 |
| (28) キャサヌル森林病 | (49) 鼻疽 |
| (29) Q熱 | (50) ブルセラ症 |
| (30) 狂犬病 | (51) ベネズエラウマ脳炎 |
| (31) コクシジオイデス症 | (52) ヘンドラウイルス感染症 |
| (32) サル痘 | (53) 発しんチフス |
| (33) ジカウイルス感染症 | (54) ボツリヌス症 |
| (34) 重症熱性血小板減少症候群
(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る) | (55) マラリア |
| (35) 腎症候性出血熱 | (56) 野兔病 |
| (36) 西部ウマ脳炎 | (57) ライム病 |
| (37) ダニ媒介脳炎 | (58) リッサウイルス感染症 |
| (38) 炭疽 | (59) リフトバレー熱 |
| (39) チクングニア熱 | (60) 類鼻疽 |
| (40) つつが虫病 | (61) レジオネラ症 |
| | (62) レプトスピラ症 |
| | (63) ロッキー山紅斑熱 |

五類 全数把握対象

- | | |
|---|-----------------------------------|
| (64) アメーバ赤痢 | (74) 侵襲性髄膜炎菌感染症 *直ちに届出 |
| (65) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) | (75) 侵襲性肺炎球菌感染症 |
| (66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | (76) 水痘
(患者が入院を要すると認められるものに限る) |
| (67) 急性脳炎
(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) | (77) 先天性風しん症候群 |
| (68) クリプトスポリジウム症 | (78) 梅毒 |
| (69) クロイツフェルト・ヤコブ病 | (79) 播種性クリプトコックス症 |
| (70) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | (80) 破傷風 |
| (71) 後天性免疫不全症候群 | (81) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 |
| (72) ジアルジア症 | (82) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 |
| (73) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | (83) 風しん |
| | (84) 麻しん *直ちに届出 |
| | (85) 薬剤耐性アシネトバクター感染症 |

診断後直ちに届出

全数報告

七日以内に届出

五類 定点把握対象

週報・月報報告

- | | | | |
|---|--|---|---|
| <p>週報・小児科定点
↑</p> <p>基幹定点
↑</p> <p>週報
↑</p> <p>眼科定点
↑</p> | <p>(86) RSウイルス感染症
(87) 咽頭結膜熱
(88) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
(89) 感染性胃腸炎
(90) 水痘
(91) 手足口病
(92) 伝染性紅斑
(93) 突発性発しん
(94) 百日咳
(95) ヘルパンギーナ
(96) 流行性耳下腺炎
(97) インフルエンザ*1
(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)
(98) 急性出血性結膜炎
(99) 流行性角結膜炎</p> | <p>週報
↑</p> <p>月報
↑</p> <p>基幹定点
↑</p> <p>月報
↑</p> <p>基幹定点
↑</p> | <p>(100) クラミジア肺炎(オウム病を除く)
(101) 細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
(102) マイコプラズマ肺炎
(103) 無菌性髄膜炎
(104) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る)
(105) 性器クラミジア感染症
(106) 性器ヘルペスウイルス感染症
(107) 尖圭コンジローマ
(108) 淋菌感染症
(109) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(110) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(111) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p> |
|---|--|---|---|

定点報告

*1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)の基幹定点の届出対象は入院したのもの
*2 (86)感染性胃腸炎のうち、病原体がロタウイルスであるものを基幹定点から届け出る

新型インフルエンザ等感染症

(112) 新型インフルエンザ

(113) 再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

- (114) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)
(115) 発熱及び発疹又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

届出は管轄保健所へ

2 獣医師による届出対象疾患と動物

○届出基準:「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第13条第1項の規定に基づく届出の基準について」

感染症法第13条に基づく獣医師が届出を行う感染症と動物

- | | |
|---|-------------------------------------|
| (1) エボラ出血熱(サル) | (6) ウエストナイル熱(鳥類に属する動物) |
| (2) 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る(イタチアナグマ、タヌキ及びハクビシン)) | (7) エキノコックス症(犬) |
| (3) ペスト(プレリドッグ) | (8) 結核(サル) |
| (4) マールブルグ病(サル) | (9) 鳥インフルエンザ(H5N1またはH7N9(鳥類に属する動物)) |
| (5) 細菌性赤痢(サル) | (10) 中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ) |
| (9) 鳥インフルエンザ(H5N1)(鳥類に属する動物) | |

届出は管轄保健所へ

I 事業の概要

I 事業の概要

沖縄県は 1980 年 7 月から県医師会および定点医療機関の協力のもとに全県的な感染症の報告体制を構築し、疾患の流行状況の把握に努めるべく感染症サーベイランス事業を、厚生省（現厚生労働省）より早く開始した。

厚生省は、1981 年 7 月から感染症の実態を的確に把握するために全国的な感染症サーベイランス事業を開始した。さらに、1987 年 1 月から新たに「結核・感染症サーベイランス事業」となり、全国の保健所、都道府県（指定都市）、厚生省（現厚生労働省）間がコンピュータオンラインシステムで結ばれ、結核および感染症の情報が迅速かつ的確に利用できるようになった。

感染症サーベイランス事業は、1998 年より感染症発生動向調査事業となり、さらに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」とする。）が 1999 年 4 月から施行され、感染症対策の強化が行われてきた。

2006 年 4 月には、新しい全国オンラインシステムである感染症サーベイランスシステム（NESID）が稼働している。

2016 年末までに届出対象となる感染症は、一類感染症 7 疾患、二類感染症 7 疾患、三類感染症 5 疾患、四類感染症 44 疾患、五類感染症 48 疾患（全数 22 疾患、定点把握 26 疾患）、新型インフルエンザ等が 2 疾患、指定感染症 0 疾患（該当なし）、法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症が 2 疾患の計 115 疾患である。なお、2016 年 2 月 15 日にジカウイルス感染症が四類感染症に追加された。（医療機関届出対象感染症一覧を参照）

これらの感染症は、患者発生状況を医療機関が所管保健所に報告し、各保健所からの報告を県健康長寿課（当時。現 地域保健課。以下同じ。）で集約して国に報告している。感染症情報の迅速な提供を図るための施設として感染症情報センターが衛生環境研究所に設置され、データ収集及び提供を行っている。県健康長寿課および各保健所においては、感染症情報センターで処理された集計データおよび全国の還元データを利用し、各関係機関に情報提供をするとともに、感染症の流行状況の把握を行っている（次頁「感染症発生動向調査事業～患者情報の流れ～」を参照）。

また、衛生環境研究所では、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い、得られた結果を各関係機関に情報提供しているが、2016 年 4 月の感染症法の一部改正法の施行に伴い、病原体情報の収集体制が強化された。

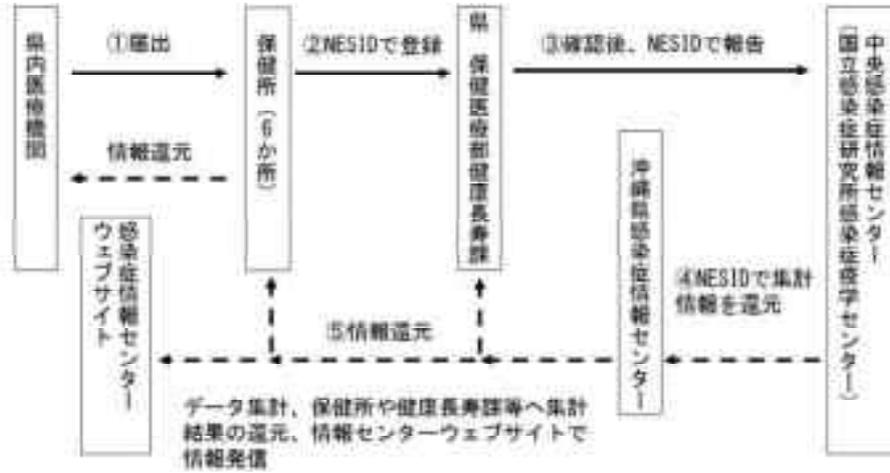
[沖縄県感染症情報センター ウェブサイト]

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

(定点医療機関)

2016 年末時点の県内の定点医療機関は、小児科 34 定点、インフルエンザ 58 定点（同小児科 34 定点+内科 24 定点）、眼科 9 定点、性感染症 11 定点、基幹 7 定点の合計 85 定点である。

感染症発生動向調査事業 ～患者情報の流れ～



(1) 県内の保健所別定点数 (2016年12月31日時点)

保健所名	小児科 定点 (ア)	内科 定点 (イ)	インフル エンザ定点 (ア)+(イ)	眼科 定点	性感染症 (STD) 定点	基幹 定点	医療 機関数
①北部保健所	3	2	5	1	1	1	5
②中部保健所	12	8	20	2	3	2	23
③那覇市保健所	7	5	12	1	3	1	10
④南部保健所	8	6	14	3	4	1	15
⑤宮古保健所	2	2	4	1	0	1	5
⑥八重山保健所	2	1	3	1	0	1	3
合計	34	24	58	9	11	7	61

(2) 報告週対応表 (2016年) および定点種別定点数(全国)

月	週	平均 期間	週 報				月 報	
			インフルエ ンザ定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点	STD定点	基幹定点
			4941	3156	692	477	985	479
1月	1	1/4 ~ 1/10	4943	3150	690	476	979	480
	2	1/11 ~ 1/17	4957	3160	690	478		
	3	1/18 ~ 1/24	4950	3158	690	478		
	4	1/25 ~ 1/31	4955	3160	691	477		
2月	5	2/1 ~ 2/7	4956	3159	690	478	981	480
	6	2/8 ~ 2/14	4957	3162	691	478		
	7	2/15 ~ 2/21	4959	3163	691	478		
	8	2/22 ~ 2/28	4952	3159	690	478		
3月	9	2/29 ~ 3/6	4956	3158	687	476	983	480
	10	3/7 ~ 3/13	4956	3164	689	478		
	11	3/14 ~ 3/20	4946	3157	689	477		
	12	3/21 ~ 3/27	4956	3162	691	478		
4月	13	3/28 ~ 4/3	4946	3158	689	478	990	479
	14	4/4 ~ 4/10	4948	3156	695	478		
	15	4/11 ~ 4/17	4946	3155	695	478		
	16	4/18 ~ 4/24	4955	3161	693	478		
5月	17	4/25 ~ 5/1	4937	3148	694	477	987	480
	18	5/2 ~ 5/8	4937	3152	696	478		
	19	5/9 ~ 5/15	4949	3160	695	477		
	20	5/16 ~ 5/22	4952	3163	694	478		
6月	21	5/23 ~ 5/29	4944	3159	695	478	987	479
	22	5/30 ~ 6/5	4944	3161	694	478		
	23	6/6 ~ 6/12	4947	3161	695	477		
	24	6/13 ~ 6/19	4945	3162	693	478		
7月	25	6/20 ~ 6/26	4941	3159	697	478	989	480
	26	6/27 ~ 7/3	4950	3166	694	478		
	27	7/4 ~ 7/10	4950	3169	696	478		
	28	7/11 ~ 7/17	4925	3154	695	478		
8月	29	7/18 ~ 7/24	4943	3166	697	478	987	480
	30	7/25 ~ 7/31	4944	3162	697	477		
	31	8/1 ~ 8/7	4930	3159	697	477		
	32	8/8 ~ 8/14	4832	3094	677	477		
9月	33	8/15 ~ 8/21	4854	3094	686	478	988	480
	34	8/22 ~ 8/28	4915	3140	696	478		
	35	8/29 ~ 9/4	4936	3156	696	476		
	36	9/5 ~ 9/11	4938	3157	695	477		
10月	37	9/12 ~ 9/18	4920	3154	692	477	987	479
	38	9/19 ~ 9/25	4926	3149	695	478		
	39	9/26 ~ 10/2	4945	3162	696	478		
	40	10/3 ~ 10/9	4928	3150	692	478		
11月	41	10/10 ~ 10/16	4940	3160	695	478	986	479
	42	10/17 ~ 10/23	4941	3159	695	478		
	43	10/24 ~ 10/30	4945	3164	695	478		
	44	10/31 ~ 11/6	4950	3163	695	478		
12月	45	11/7 ~ 11/13	4956	3165	695	477	986	480
	46	11/14 ~ 11/20	4952	3164	695	477		
	47	11/21 ~ 11/27	4956	3168	692	476		
	48	11/28 ~ 12/4	4961	3165	695	478		
12月	49	12/5 ~ 12/11	4965	3169	695	477	986	480
	50	12/12 ~ 12/18	4960	3164	695	478		
	51	12/19 ~ 12/25	4951	3158	693	478		
	52	12/26 ~ 1/1	4894	3118	676	477		

(3) 感染症発生動向調査事業 定点医療機関一覧

平成28年12月31日現在

	保健所名	医療機関名	住 所	全 85定点 (定点名)	平成28年12月31日現在				
					24 内科	34 小児科	9 眼科	7 基幹	11 STD
1	北部保健所	県立北部病院	名護市中大2-12-3	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		儀保小児科内科医院	名護市大西2-4-32	小児科		●			
3		今帰仁診療所	今帰仁村字謝名139	小児科、内科	●	●			
4		辻眼科	名護市宮里1-26-11	眼科			●		
5		なかち泌尿器科クリニック	名護市中大5-4-50	STD(泌)					●
1	中部保健所	医療法人ユカリア沖縄 かなな病院	宜野座村字漢那469	内科	●				
2		石川医院	うるま市石川2-21-5	内科	●				
3		医療法人きんクリニック	金武町字金武94	内科	●				
4		岸本内科クリニック	沖縄市登川1-1-24	内科	●				
5		愛聖クリニック	沖縄市高原5-15-11	内科	●				
6		よなみね内科	宜野湾市普天間2-4-5	内科	●				
7		ライフクリニック長浜	読谷村字長浜1530-1	内科	●				
8		ちばなクリニック	沖縄市字知花6-25-15	小児科、内科、STD(泌)	●	●			●
9		県立中部病院	うるま市宮里281	小児科、基幹		●		●	
10		みやぎ小児科クリニック	宜野湾市我如古447	小児科		●			
11		嘉数医院	沖縄市諸見里1-26-2	小児科		●			
12		大嶺医院	うるま市田場1417	小児科		●			
13		山田小児科内科医院	うるま市石川東山1-19-11	小児科		●			
14		もりなが内科・小児科クリニック	北谷町美浜2丁目7-4	小児科		●			
15		伊元小児科医院	沖縄市字泡瀬4-39-12	小児科		●			
16		そけん小児科	読谷村字波平2459	小児科		●			
17		愛知クリニック	宜野湾市字愛知16-1	小児科		●			
18		いとむクリニック小児科	宜野湾市伊佐1-10-9	小児科		●			
19		宮里眼科	うるま市石川東山1-22-2	眼科			●		
20		ひかり眼科	宜野湾市字愛知45	眼科			●		
21		中頭病院	沖縄市知花6-25-5	基幹				●	
22		上村病院	沖縄市胡屋1-6-2	小児科、STD(産)		●			●
23		名城病院	うるま市字赤道174-6	STD(産)					●
1	南部保健所	浦添総合病院	浦添市伊祖4-16-1	内科、STD(産)	●				●
2		同仁病院	浦添市城間1-37-12	内科	●				
3		みゆき小児科	浦添市字前田3-3-8-103号	小児科		●			
4		たから小児科医院	浦添市大平1-36-5	小児科		●			
5		ティーダこどもクリニック	浦添市城間4-3-10-1	小児科		●			
6		比嘉眼科病院	浦添市城間4-34-20	眼科			●		
7		県立南部医療センター・こども医療センター	南風原町字新川118-1	小児科、内科、基幹、STD(泌)	●	●		●	●
8		南部徳洲会病院	八重瀬町字外間171-1	内科、STD(泌)	●				●
9		豊見城中央病院	豊見城市字上田25	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
10		わんぱくクリニック	南風原町字津嘉山1674	小児科		●			
11		与那原中央病院	与那原町字与那原2905	内科	●				
12		ひめゆりクリニック	糸満市字伊原107-1	小児科		●			
13		あおぞら小児科	与那原町字上与那原340-1	小児科		●			
14		安里眼科	糸満市字潮平722	眼科			●		
15		はえばる眼科医院	南風原町字兼城725	眼科			●		
1	宮古保健所	県立宮古病院	宮古島市平良字東仲宗根807	小児科、基幹		●		●	
2		ひが小児科医院	宮古島市平良西里781-5	小児科		●			
3		下地内科医院	宮古島市平良下里1259-1	内科	●				
4		池村内科医院	宮古島市平良字東仲宗根194	内科	●				
5		下地眼科医院	宮古島市平良下里577-1	眼科			●		
1	保八健重所山	県立八重山病院	石垣市字大川732	小児科、内科、基幹	●	●		●	
2		よしもとこどもクリニック	石垣市登野城1024-1	小児科		●			
3		宮良眼科医院	石垣市字大川140	眼科			●		
1	那覇市保健所	国場十字路医院	那覇市字仲井真272-1	内科	●				
2		那覇市立病院	那覇市古島2-31-1	小児科、内科、基幹、STD(産)	●	●		●	●
3		沖縄赤十字病院	那覇市与儀1-3-1	小児科、内科、STD(産)	●	●			●
4		沖縄協同病院	那覇市古波蔵4-10-55	小児科、内科	●	●			
5		西町クリニック	那覇市西3-4-1	小児科、内科	●	●			
6		かおる小児科	那覇市字国場724-3 メゾンセブン101	小児科		●			
7		宮城小児科医院	那覇市牧志2-16-5	小児科		●			
8		安謝小児クリニック	那覇市安謝215-1	小児科		●			
9		石川眼科	那覇市泉崎2-3-20	眼科			●		
10		大浜第一病院	那覇市天久1000	STD(産)					●

Ⅱ 報告の概要

Ⅱ 報告の概要

2016（平成 28）年、本県での報告は、一類感染症が 0 人、二類感染症が 386 人、三類感染症が 29 人、四類感染症が 72 人、五類感染症が 55,100 人（全数把握疾患：200 人、定点把握疾患：54,900 人）の報告があり、対象感染症 115 疾患の合計 55,587 人であった。

五類感染症定点把握疾患は、週単位報告（週報）と月単位報告（月報）に大別される。週報はインフルエンザ定点、小児科定点、基幹定点報告に、月報は性感染症（STD）定点と基幹定点（薬剤耐性菌）報告に細分類される。

週報は、2016（平成 28）年 1 月 4 日～2017（平成 29）年 1 月 1 日までの 52 週分である。月報は、2016（平成 28）年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 12 ヶ月分である。

1 全数把握感染症（一～五類：83 疾患）の報告状況

（Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及び 2 全数把握感染症（全医療機関報告）を参照）

2016 年県内で報告された全数把握感染症は 26 疾患で 687 件である。

注目された感染症は以下のとおりである。

（1）腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

2016 年の報告数は 28 人で、前年比 1.04 とほぼ前年並となった。年代では、1 歳から 88 歳までと広い年代でみられた。血清型では O-157（11 人、全体の 39 %）、毒素型では VT1VT2 と VT2（共に 8 人、同 29 %）が最も多く見られた。

また、2016 年 7 月から 8 月にかけて県内観光施設にて提供されたサトウキビジュースが原因食品とした集団食中毒事例（O-157 VT2）があり、15 都道府県にわたる広域散発食中毒事例となった。

（2）つつが虫病（四類感染症）

2000 年以降は、年間 0、若しくは 1～2 例であったが、2015 年は 4 例に増加し、2016 年は 10 例と更に増加した。いずれも宮古保健所管内で 50 歳代から 80 歳代の男女にみられ、ツツガムシやダニ等からの感染と考えられた。

（3）デング熱（四類感染症）

報告数は 2016 年の報告数は 4 人と、2012 年以降最多となった。いずれの報告も東南アジアへ渡航、帰国後に発症した。

（4）レプトスピラ症（四類感染症）

2016 年の報告数は 43 人と、統計を取り始めた 2004 年以降最多となり、全国の報告数の約 57 %を占めた。毎年夏から秋にかけて報告が増え、2016 年は 9 月が最も多かった。推定感染地域は、本島北部地域と八重山地域に集中し、推定感染経路の多くが水系感染（河川でのレジャー活動等における感染）であった。

(5) 梅毒（五類感染症）

梅毒の報告数は 2011 年以降増加傾向にあり、2016 年は 41 人と 2000 年以降で最多となった。男性が 8 割以上を占めるが、女性の感染も 5 人（12 %）と増加傾向にある。年代では 20 歳代から 40 歳代に多いが、20 歳代に増加傾向がみられた。

2 五類定点把握感染症(週報 19 疾患、月報 7 疾患)の報告状況

(Ⅳ 資料編 1 各表 表 1、表 2 及びⅢ 定点把握対象 五類感染症（週報・月報）発生状況を参照）

(1) 週報

ア インフルエンザ／小児科定点

（Ⅱ 3.（1）～（4）報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照）

2016 年県内で報告された、インフルエンザ及び小児科定点対象の疾患を年間定点あたり患者報告数が多かった順に並べると、上位 4 疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病、流行性耳下腺炎であった。

2016 年の本県におけるインフルエンザ患者の報告数は 34,064 人、定点あたりの報告数は 587.31 人であり、前年比 1.09 とやや増加した。2015/2016 シーズン（2015 年第 36 週～2016 年第 35 週）に医療機関から提出されたインフルエンザウイルスの検出状況は、全 36 例中、AH1pdm09_17 例、AH3 亜型 2 例、B 型 17 例（ビクトリア系統 6 例、山形系統 11 例）であった。シーズンの開始当初は B 型が主であったが、2 月を中心とする流行期では A 型が主となった。

感染性胃腸炎の 2015/2016 シーズン報告数は 6,609 人、定点あたり報告数は、194.39 人で前年比 1.36 と増加した。20 歳以上の報告が最も多く、全体の 20.5%を占めていた。

手足口病の報告数は 2,627 人、定点あたり報告数 77.27 人で前年比 1.10 と増加した。1 歳をピークに、2 歳以下までで全体の 75%を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 2,101 人、定点あたりの報告数は 61.79 人で前年比 0.45 と 2015 年の流行が収束する形となった。

イ 眼科／基幹定点

（Ⅱ 3.（1）～（4）報告数一覧表及び週別患者発生状況グラフ一覧を参照）

県内の急性出血性結膜炎（AHC）の報告数は 18 人、定点あたり報告数は 2.00 人であり、前年比 0.67 と減少した。県全体で警報基準を上回ることはなかった。

流行性角結膜炎（EKF）の報告数は 530 人、定点あたり 58.90 人であり、前年比 1.37 と増加した。

基幹定点対象の疾患では、マイコプラズマ肺炎が最も多く報告された。本県の年間報告数は 2006 年から 2012 年にかけて急増し、その後減少に転じるも、2016

年は 486 人、定点あたり 69.43 人であり、前年比 2.43 と増加した。

その他の基幹定点対象疾患では、前年に比べ増加したのがロタウイルス（定点あたり報告数 14.29 人、前年比 1.22）及び細菌性髄膜炎（定点あたり報告数 6.57 人、前年比 1.15）、減少したのはクラミジア肺炎（定点あたり報告数 0.29 人、前年比 0.29）、無菌性髄膜炎（定点あたり報告数 13.85 人、前年比 0.95）であった。

(2) 月報

ア 性感染症(STD)／基幹定点

（Ⅱ 4.（1）～（4）月別患者発生状況グラフ一覧及び報告数一覧表を参照）

2016 年県内で報告された性感染症（STD）定点対象疾患の報告数は、性器クラミジア感染症が 131 人（定点あたり報告数 11.20 人、前年比 0.77）、性器ヘルペスウイルス感染症は 26 人（定点あたり報告数 2.17 人、前年比 0.60）、尖形コンジローマが 18 人（定点あたり報告数 1.53 人、前年比 0.64）、淋菌感染症は 29 人（定点あたり報告数 2.47 人、前年比 1.37）であり、淋菌感染症を除く疾患が減少した。

基幹定点対象疾患では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症が報告数 437 人（定点あたり報告数 62.43 人、前年比 1.27）と最も多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）感染症の 2017 年の報告数は 137 人（定点あたり報告数 19.56 人、前年比 0.98）とほぼ横ばいであったが、年間通して全国を上回った。

薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は 3 人（定点あたり報告数 0.42 人）で前年の 2 人から、ほぼ横ばいとなった。

3 週別患者報告数

(1) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人/定点/週)	
		2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
小児 科 定 点	インフルエンザ	31,238	34,064	538.59	587.31	10.16	11.29
	RSウイルス感染症	1,863	1,679	54.79	49.38	1.03	0.95
	咽頭結膜熱	912	938	26.82	27.58	0.51	0.53
	A群溶血性レンサ球菌感染症	2,018	1,617	59.35	47.56	1.12	0.91
	感染性胃腸炎	5,263	7,806	154.79	229.59	2.92	4.42
	水痘	1,061	779	31.21	22.92	0.59	0.44
	手足口病	2,387	2,627	70.21	77.27	1.32	1.49
	伝染性紅斑	352	138	10.35	4.06	0.20	0.08
	突発性発疹	632	480	18.59	14.12	0.35	0.27
	百日咳	198	227	5.83	6.68	0.11	0.13
	ヘルパンギーナ	414	384	12.18	11.30	0.23	0.22
	流行性耳下腺炎	4,647	2,101	136.68	61.79	2.58	1.19
眼科 定 点	急性出血性結膜炎	30	18	3.00	2.00	0.06	0.04
	流行性角結膜炎	429	530	42.90	58.90	0.81	1.13
基幹 定 点	細菌性髄膜炎	40	46	5.71	6.57	0.11	0.13
	無菌性髄膜炎	102	97	14.57	13.85	0.27	0.27
	マイコプラズマ肺炎	200	486	28.58	69.43	0.54	1.34
	クラミジア肺炎	7	2	1.00	0.29	0.02	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	82	100	11.71	14.29	0.22	0.27

(2) 報告数一覧表(全国)

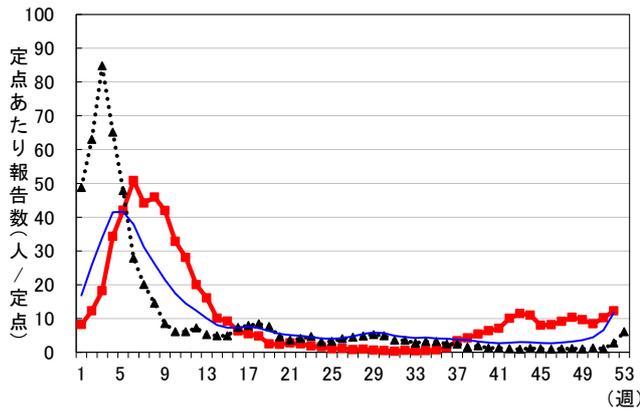
	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		週平均の定点あたり患者報告数(人/定点/週)	
		2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
小児 科 定 点	インフルエンザ	1,169,041	1,751,970	237.42	354.58	4.48	6.82
	RSウイルス感染症	120,049	104,703	38.16	33.18	0.72	0.64
	咽頭結膜熱	72,150	67,487	22.93	21.38	0.43	0.41
	A群溶血性レンサ球菌感染症	401,274	367,815	127.55	116.54	2.41	2.24
	感染性胃腸炎	987,912	1,116,800	314.02	353.87	5.92	6.81
	水痘	77,614	65,383	24.67	20.72	0.47	0.40
	手足口病	381,720	69,139	121.34	21.91	2.29	0.42
	伝染性紅斑	98,521	51,419	31.32	16.29	0.59	0.31
	突発性発疹	84,957	76,270	27.00	24.17	0.51	0.46
	百日咳	2,675	3,011	0.85	0.95	0.02	0.02
	ヘルパンギーナ	98,212	129,371	31.22	40.99	0.59	0.79
	流行性耳下腺炎	81,046	158,996	25.76	50.38	0.49	0.97
眼科 定 点	急性出血性結膜炎	494	401	0.72	0.58	0.01	0.01
	流行性角結膜炎	25,037	26,099	36.44	37.72	0.69	0.73
基幹 定 点	細菌性髄膜炎	402	493	0.84	1.03	0.02	0.02
	無菌性髄膜炎	1,085	1,379	2.27	2.89	0.04	0.06
	マイコプラズマ肺炎	10,384	19,721	21.77	41.34	0.41	0.80
	クラミジア肺炎	411	354	0.86	0.74	0.02	0.01
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4,368	5,266	9.16	11.04	0.17	0.21

(3) グラフ一覧(沖縄県)

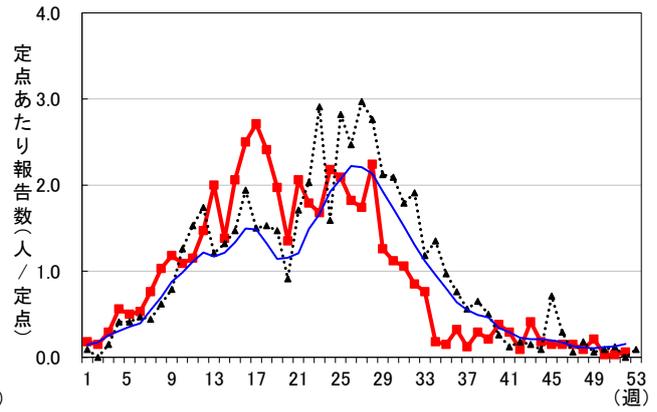
—■— 2016年 ···▲··· 2015年 — 過去5年間の平均

*過去5年間の平均:前週、当該週、後週の合計15週の平均

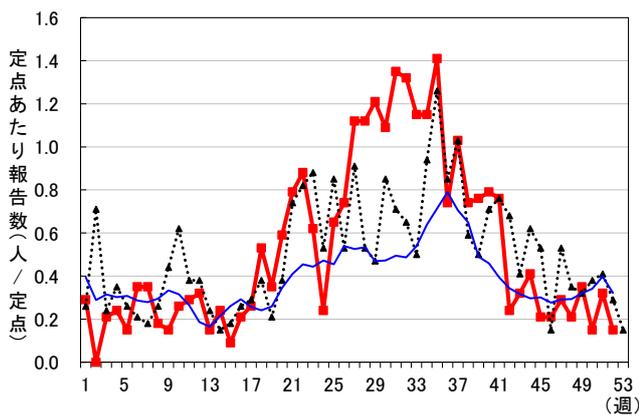
インフルエンザ



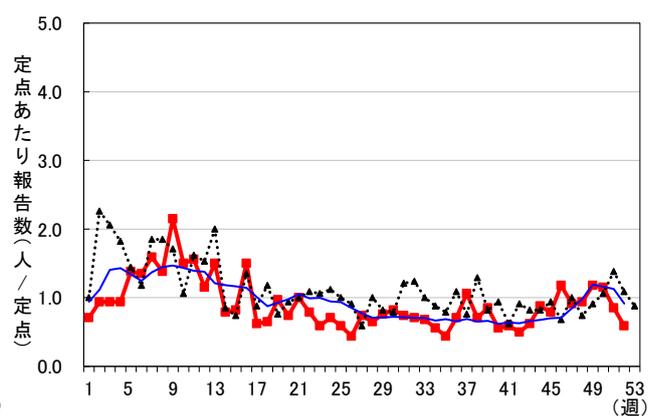
RSウイルス感染症



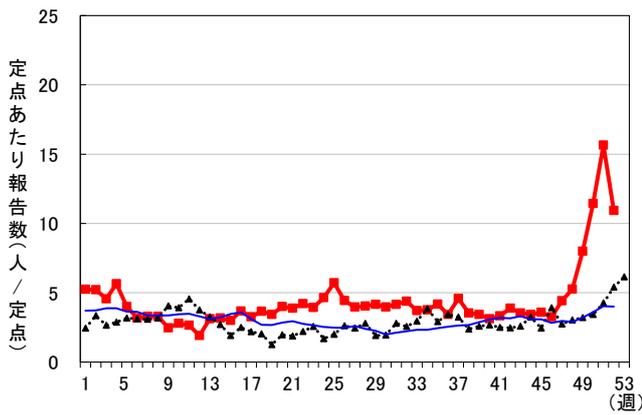
咽頭結膜熱



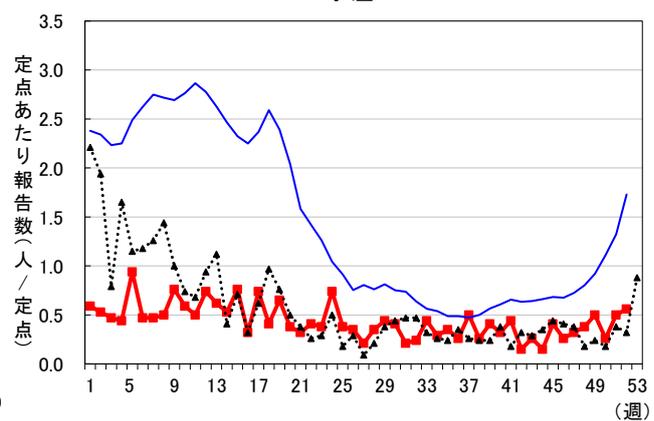
A群溶血性レンサ球菌感染症



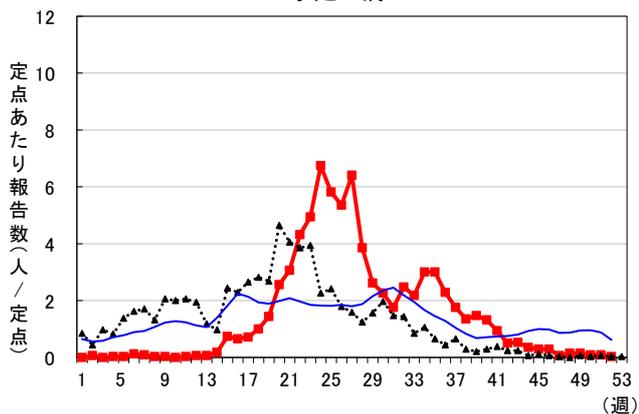
感染性胃腸炎



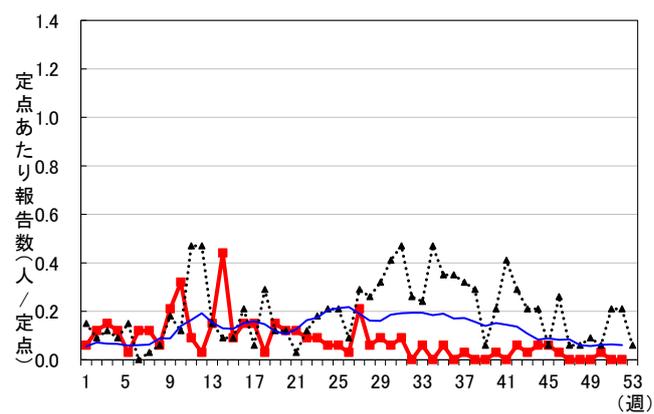
水痘



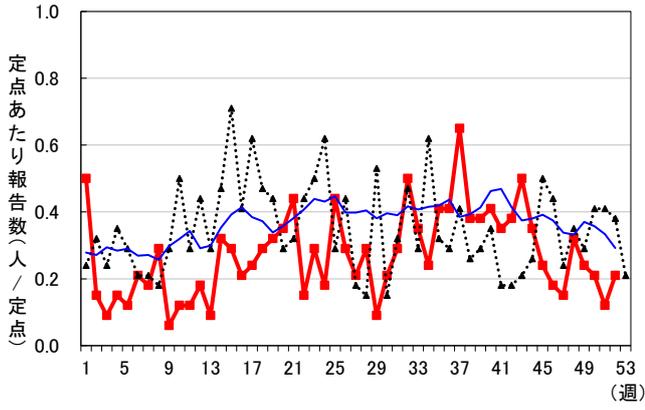
手足口病



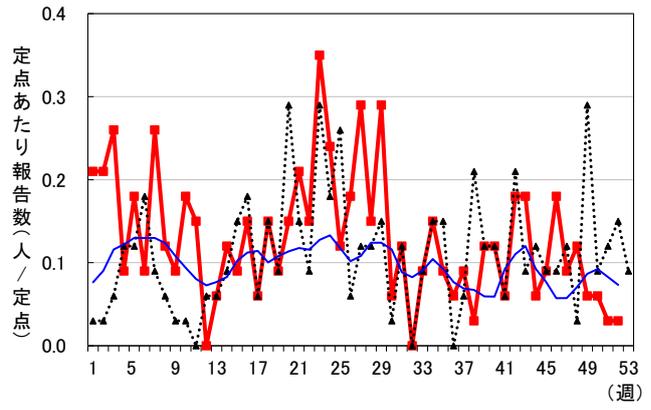
伝染性紅斑



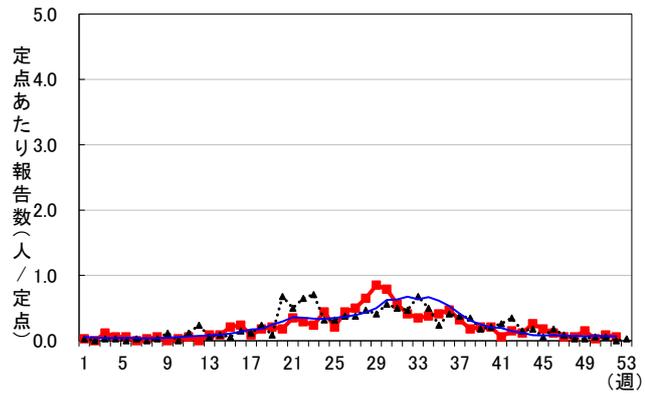
突発性発疹



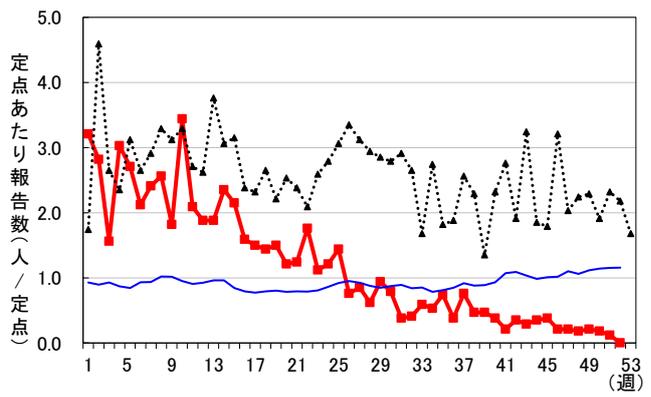
百日咳



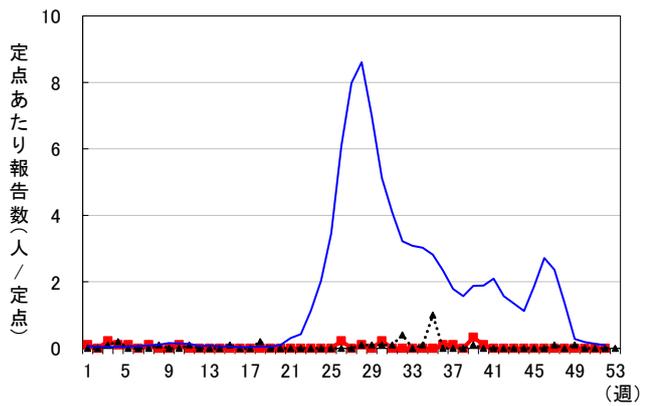
ヘルパンギーナ



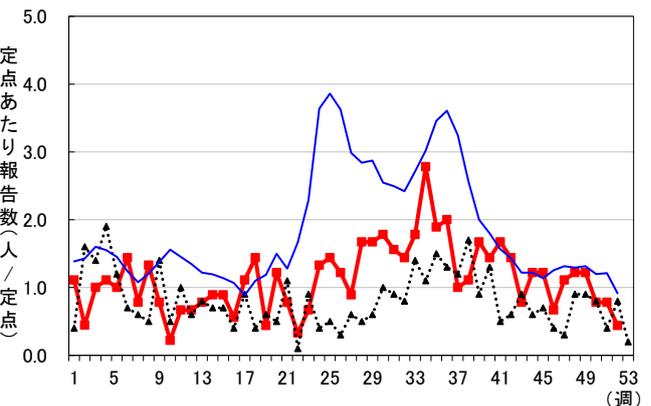
流行性耳下腺炎



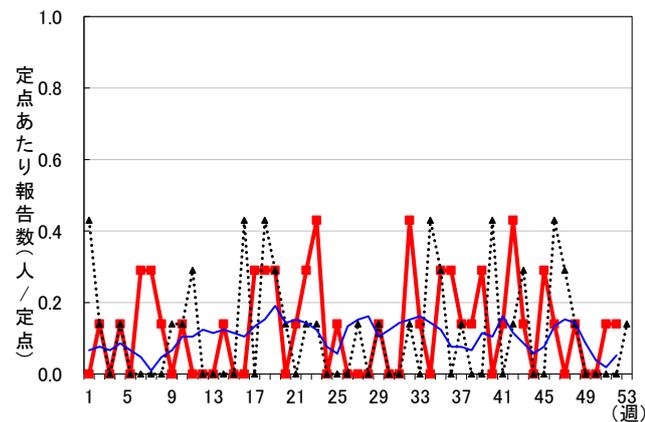
急性出血性結膜炎



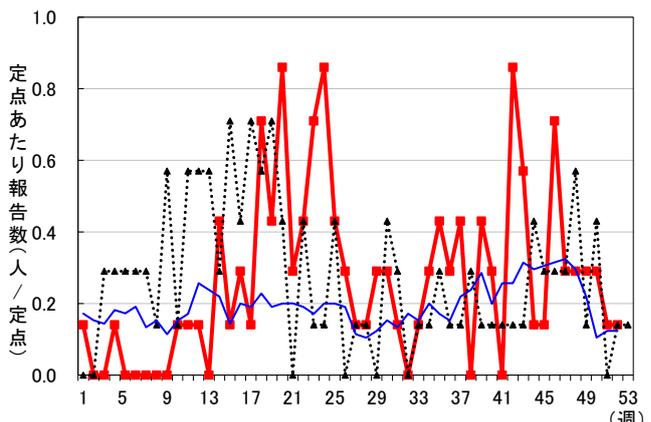
流行性角結膜炎



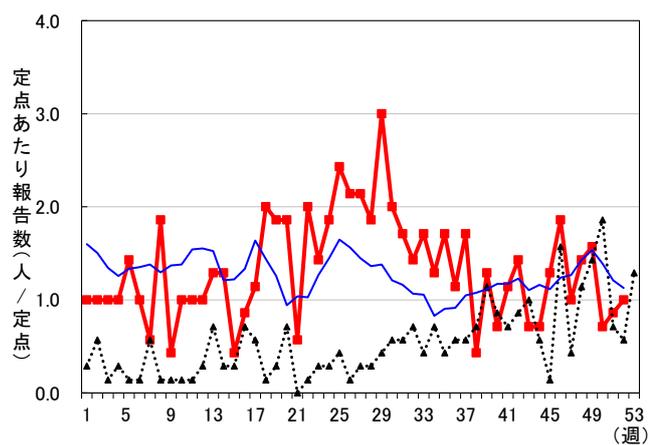
細菌性髄膜炎



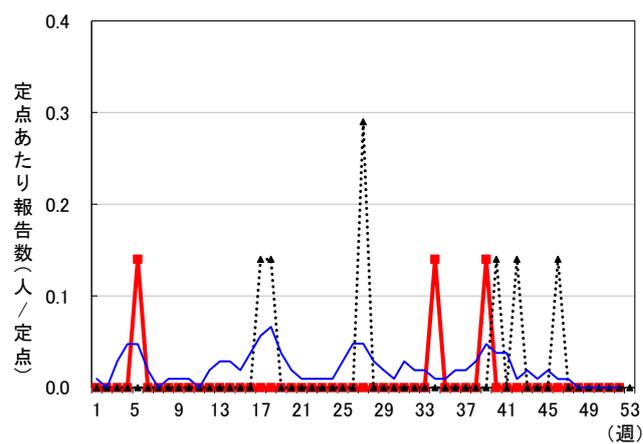
無菌性髄膜炎



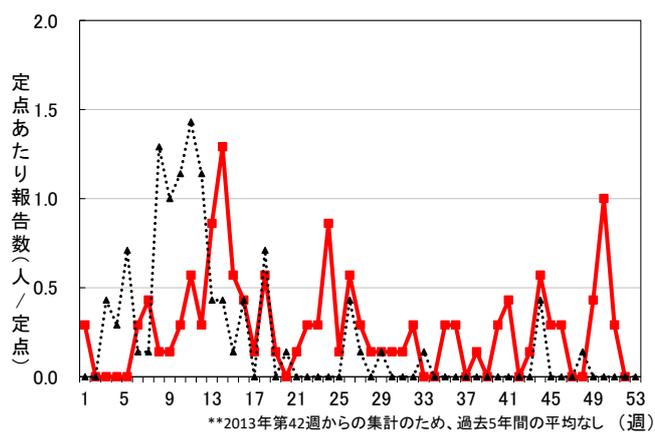
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



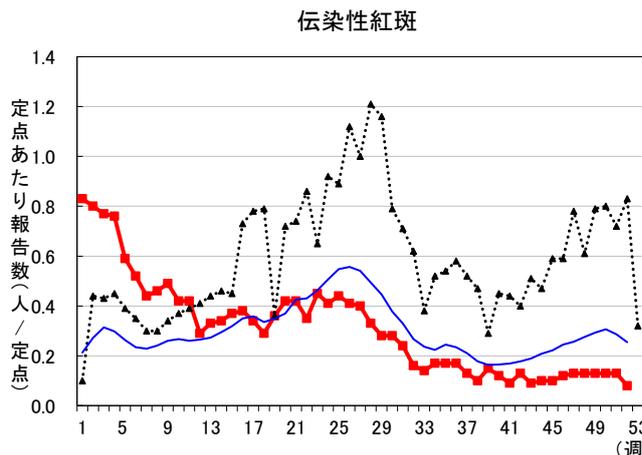
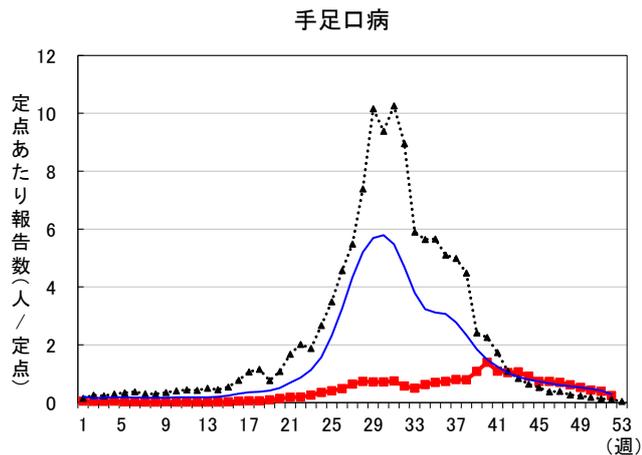
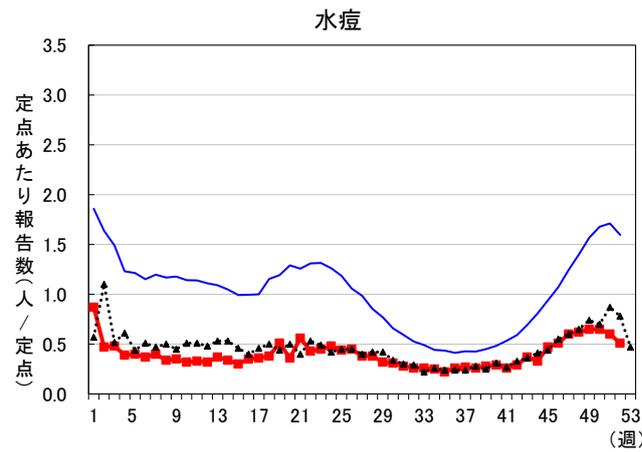
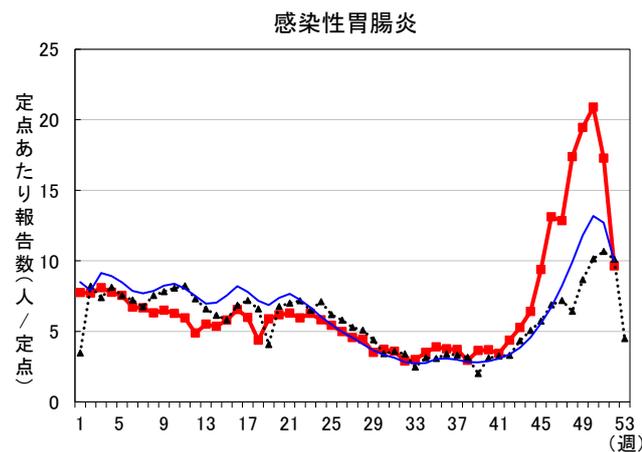
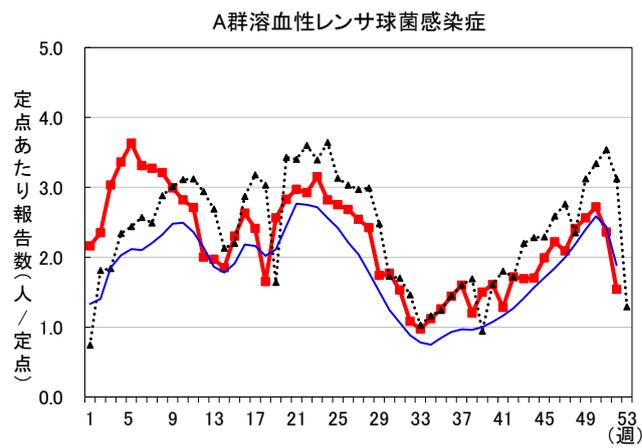
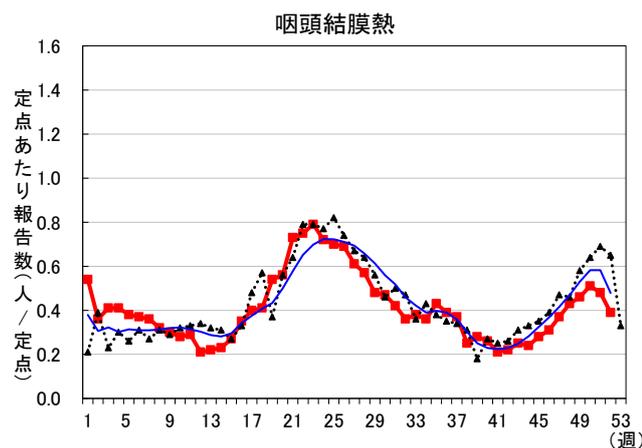
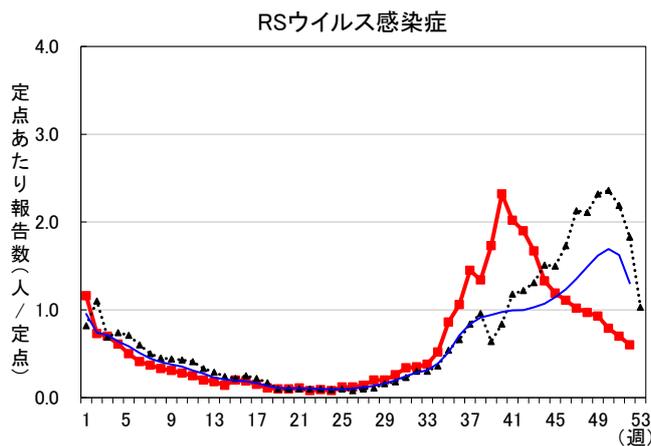
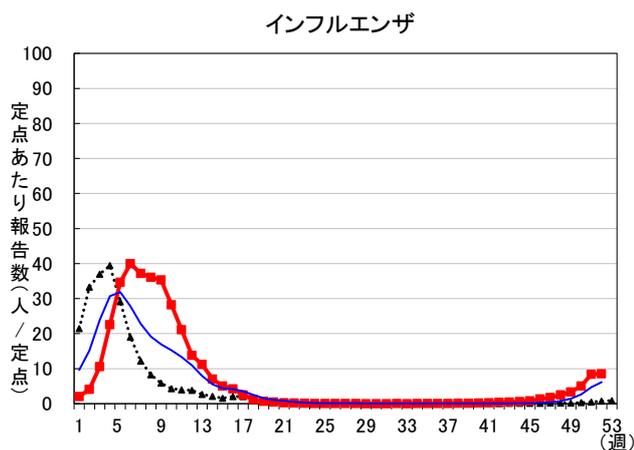
感染性胃腸炎(ロタウイルス)



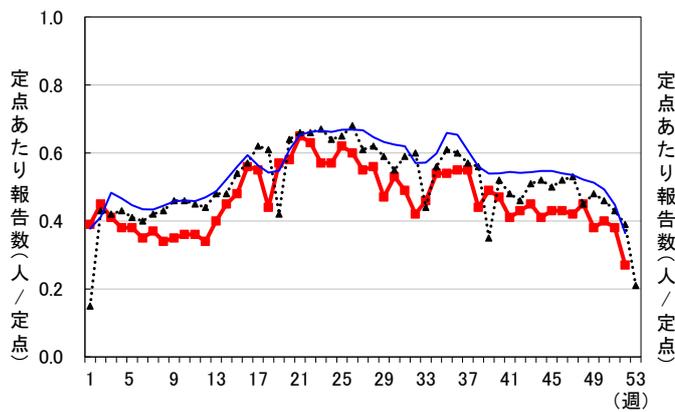
(4) グラフ一覧(全国)

—■— 2016年 ···▲··· 2015年 — 過去5年間の平均

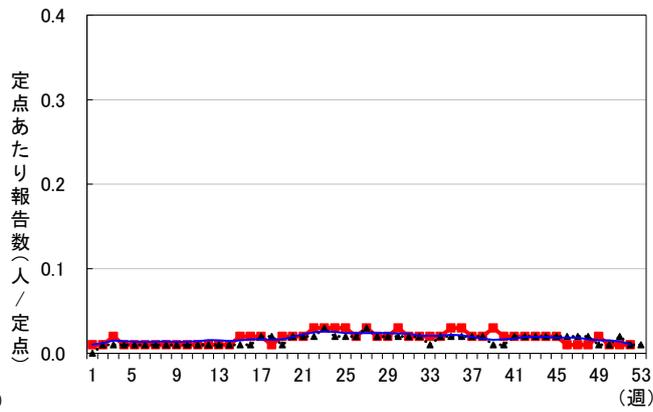
*過去5年間の平均:前週、当該週、後週の合計15週の平均



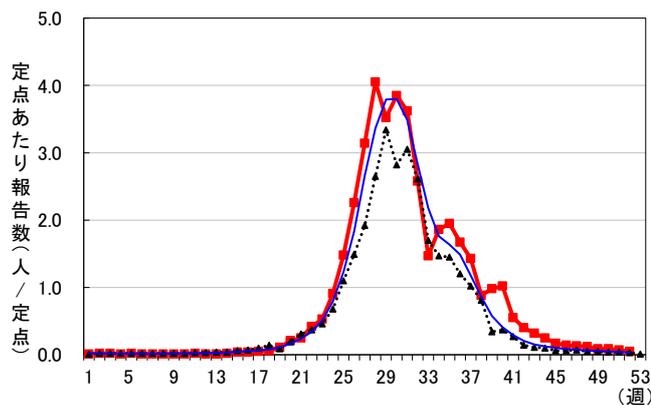
突発性発疹



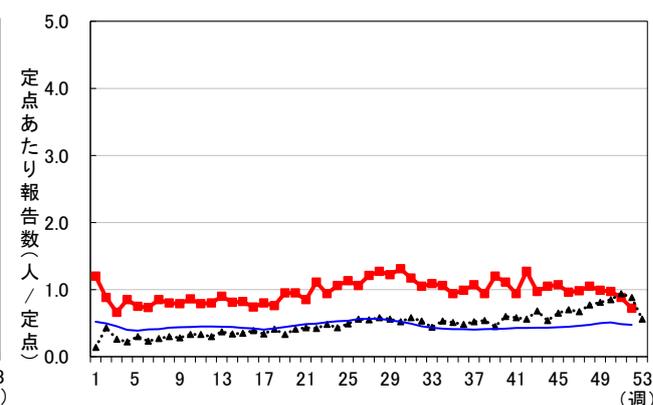
百日咳



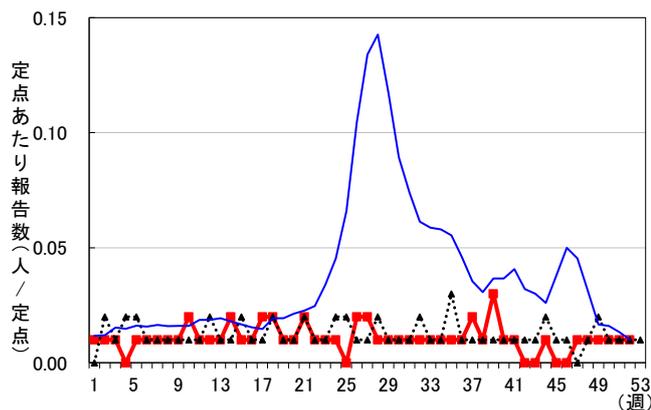
ヘルパンギーナ



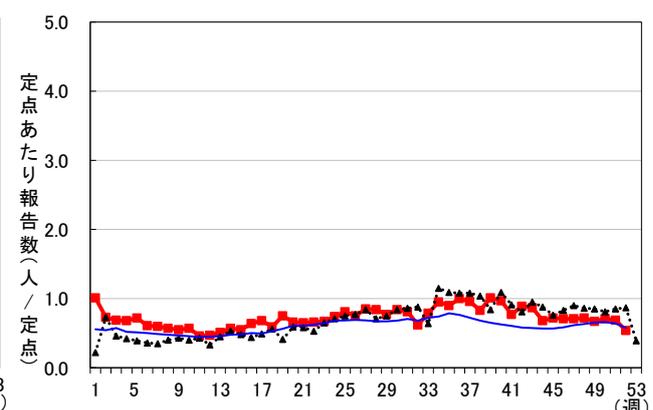
流行性耳下腺炎



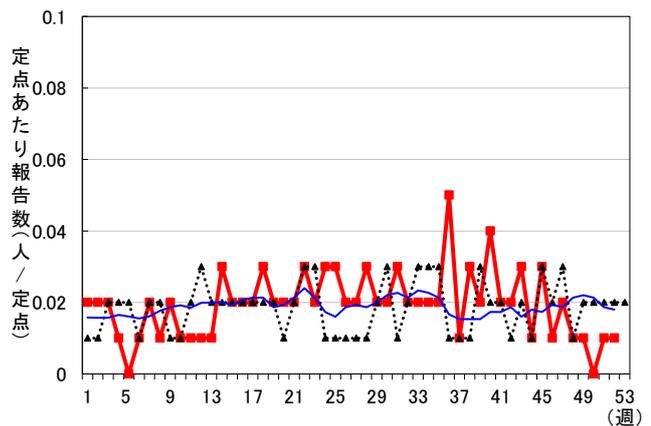
急性出血性結膜炎



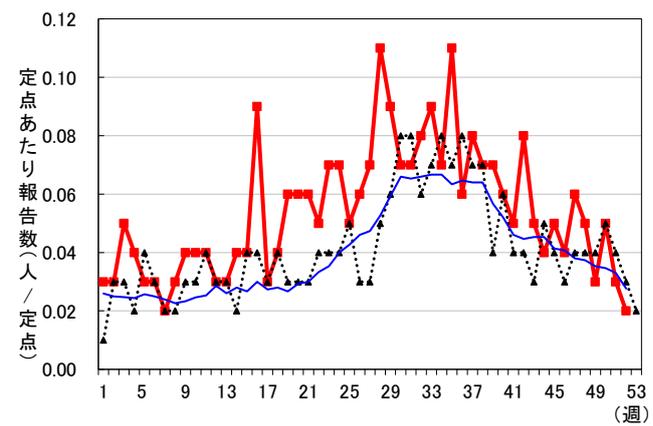
流行性角結膜炎



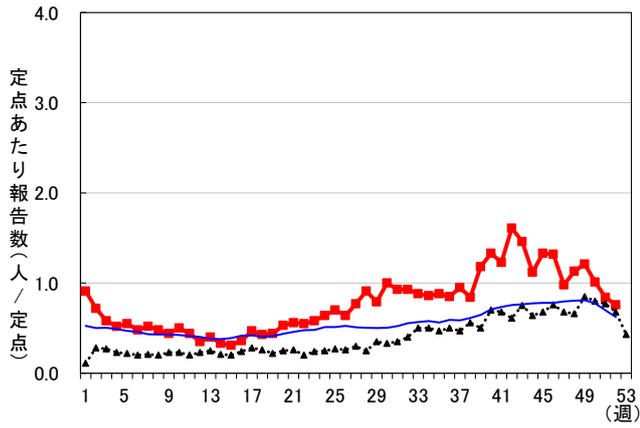
細菌性髄膜炎



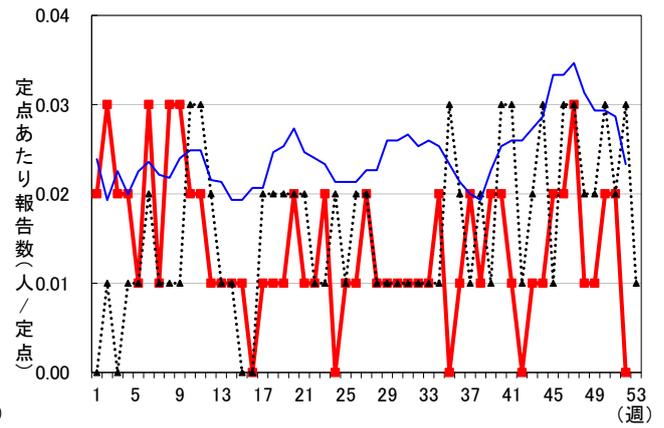
無菌性髄膜炎



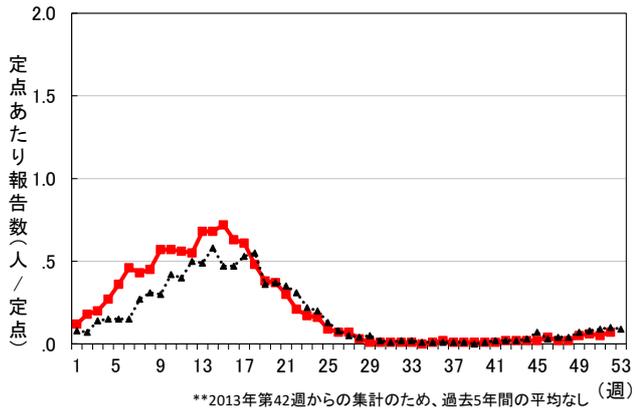
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



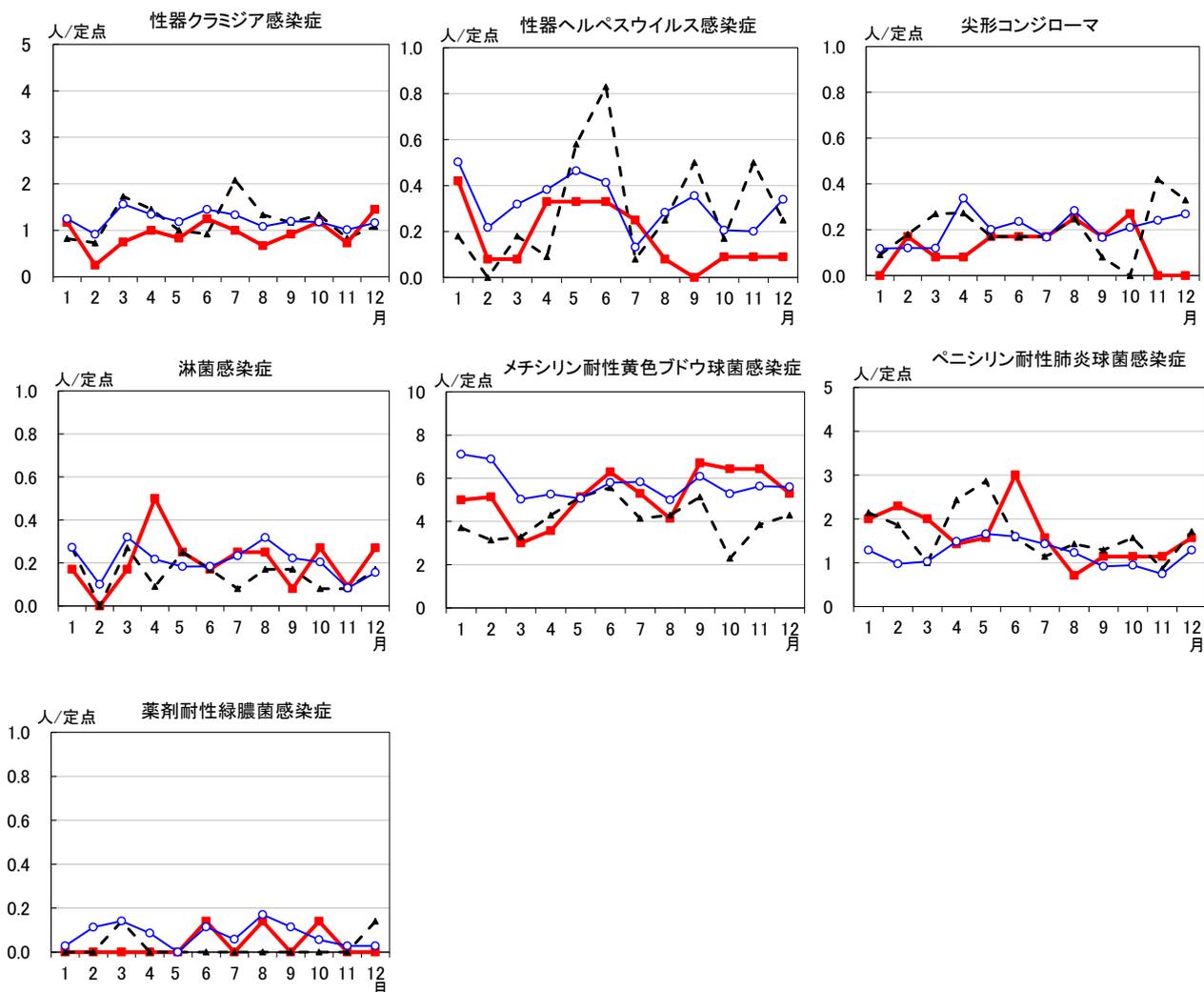
感染性胃腸炎(ロタウイルス)



**2013年第42週からの集計のため、過去5年間の平均なし (週)

4. 月別患者発生状況 (1) グラフ一覧(沖縄県)

—■— 2016年 -▲- 2015年 ○— 過去5年間の平均

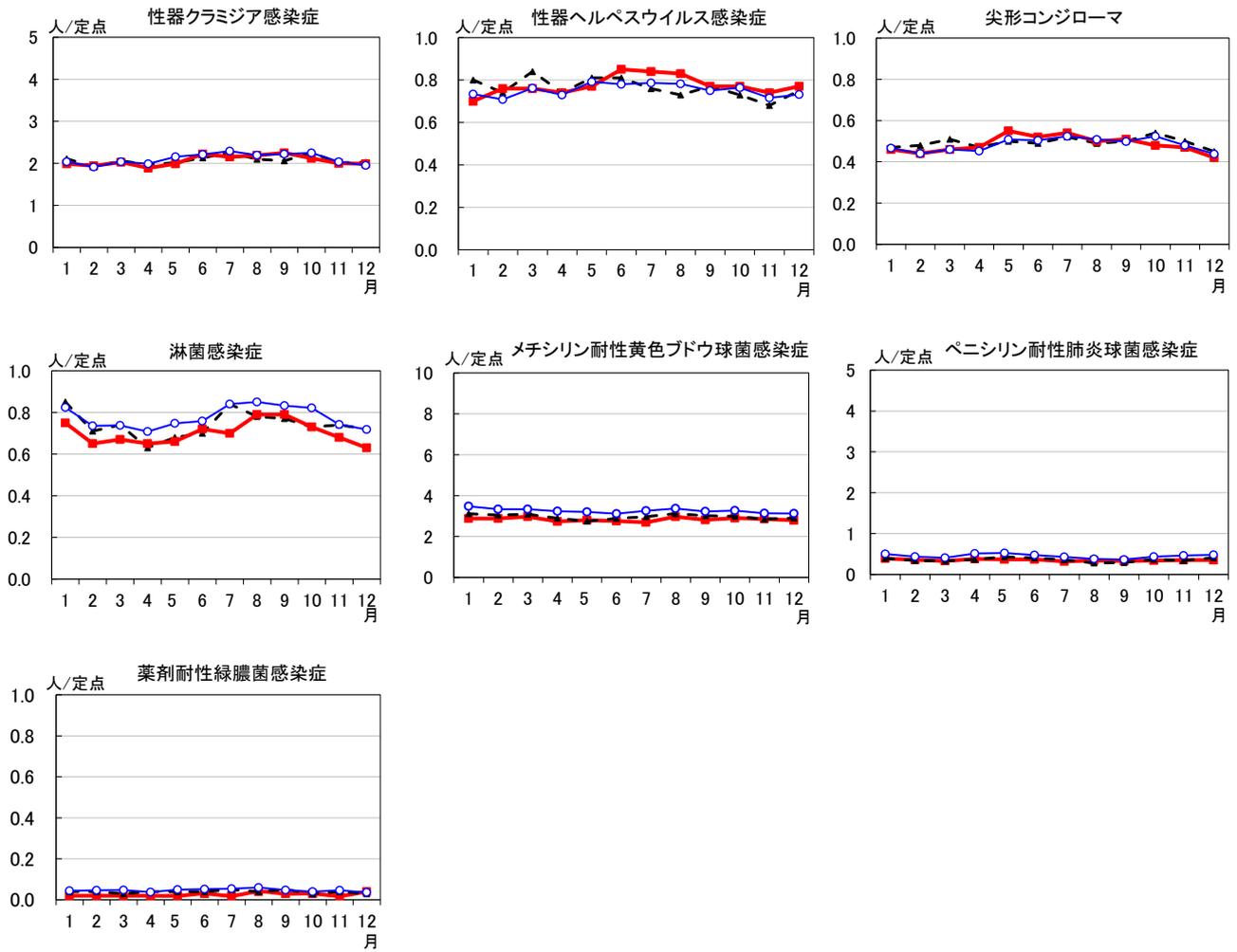


(2) 報告数一覧表(沖縄県)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
STD	性器クラミジア感染症	169	131	14.48	11.20	1.21	0.93
	性器ヘルペスウイルス感染症	43	26	3.62	2.17	0.30	0.18
	尖形コンジローマ	28	18	2.40	1.53	0.20	0.13
	淋菌感染症	21	29	1.80	2.47	0.15	0.21
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	344	437	49.14	62.43	4.10	5.20
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	139	137	19.86	19.56	1.96	1.63
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	3	0.29	0.42	0.15	0.04

(3) グラフ一覧(全国)

2016年 2015年 過去5年間の平均



(4) 報告数一覧表(全国)

	疾患名	報告数(人)		定点あたり患者報告数(人/定点)		月平均の定点あたり患者報告数(人/定点/月)	
		2015年	2016年	2015年	2016年	2015年	2016年
STD	性器クラミジア感染症	24,450	24,397	24.95	24.77	2.08	2.06
	性器ヘルペスウイルス感染症	8,974	9,175	9.16	9.31	0.74	0.78
	尖形コンジローマ	5,806	5,734	5.92	5.82	0.49	0.49
	淋菌感染症	8,698	8,298	8.88	8.42	0.74	0.70
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17,057	16,338	35.61	34.11	2.97	2.84
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,057	2,017	4.29	4.21	0.40	0.35
	薬剤耐性緑膿菌感染症	217	157	0.45	0.33	0.05	0.03

Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

1 週報 (インフルエンザ／小児科定点)

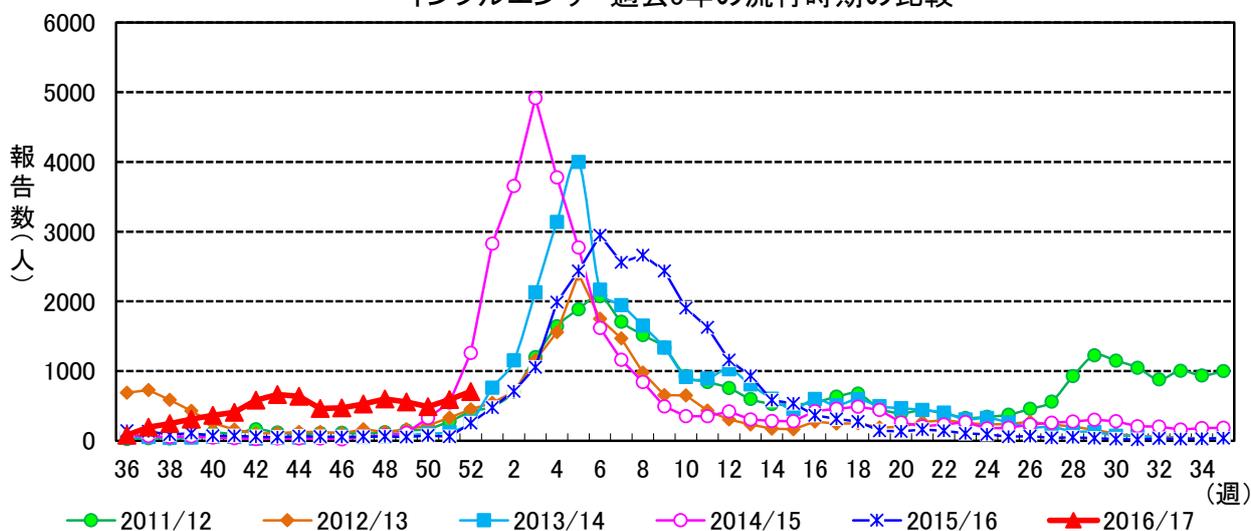
インフルエンザ

2016年沖縄県内の患者報告数は34,064人、定点あたりの報告数は587.31人であった。沖縄県の2015/16シーズン（2015年第36週～2016年第35週）は、流行の兆しである1.0人／定点を上回った状態で始まった。2016年第2週（1月）には12.22人／定点と注意報レベルを超え、第4週（1月）から第14週（4月）まで警報レベルが継続した。今シーズンのピークは、第6週（2月）50.81人／定点であった。警報解除後も、流行の兆しレベルを上回り続け、第26週（6月）まで継続した。

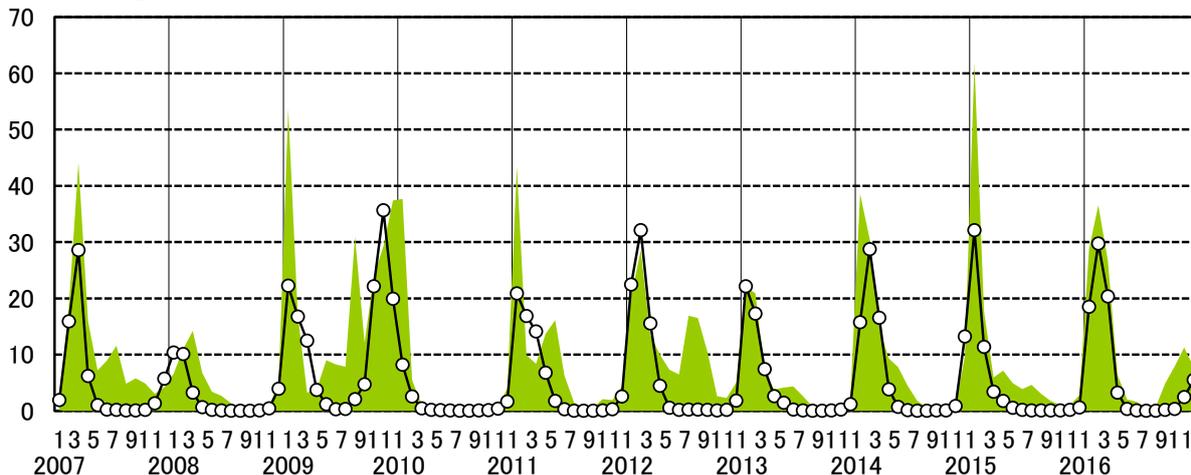
年齢階級別では、5－9歳が最も多く全体の19.7%を占め、続いて0－4歳が19.5%であった。

2015/16シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは、AH1 pdmとB型（うち山形系統11例、ビクトリア系統6例）が共に17例で最も多く、残りはAH3亜型が2例であった。

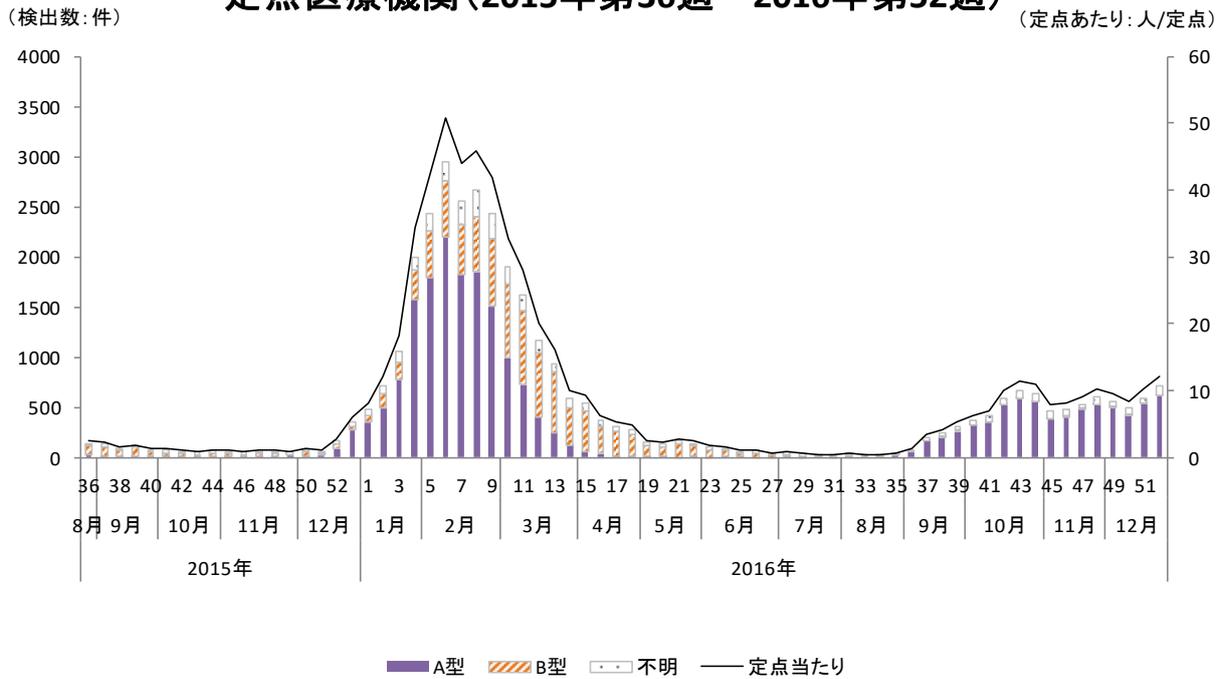
インフルエンザ 過去5年の流行時期の比較



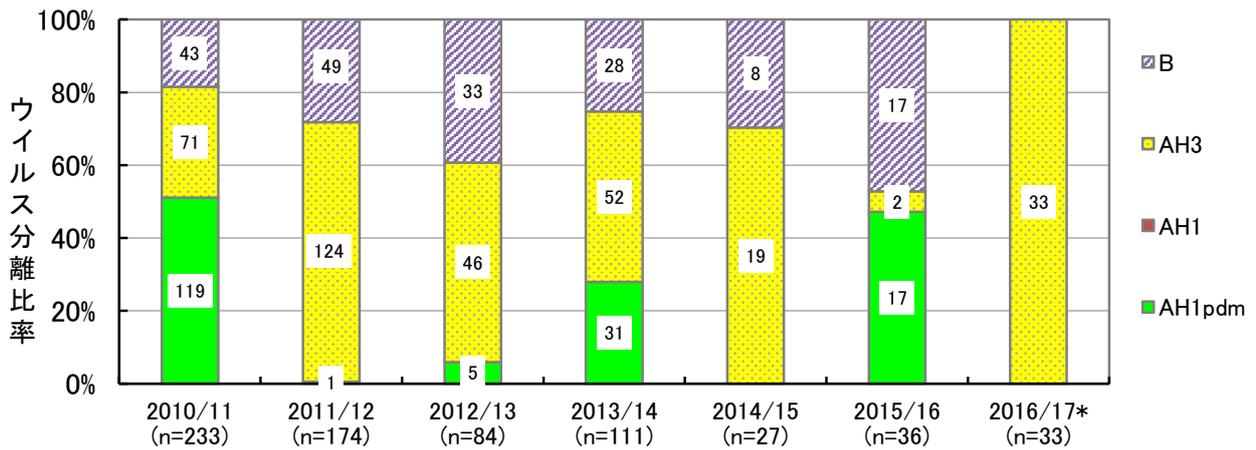
年次別患者発生状況の推移 (人／定点) 沖縄県 全国



インフルエンザウイルス型別報告 定点医療機関(2015年第36週～2016年第52週)



シーズン別インフルエンザウイルス検出状況(衛生環境研究所 検査分)

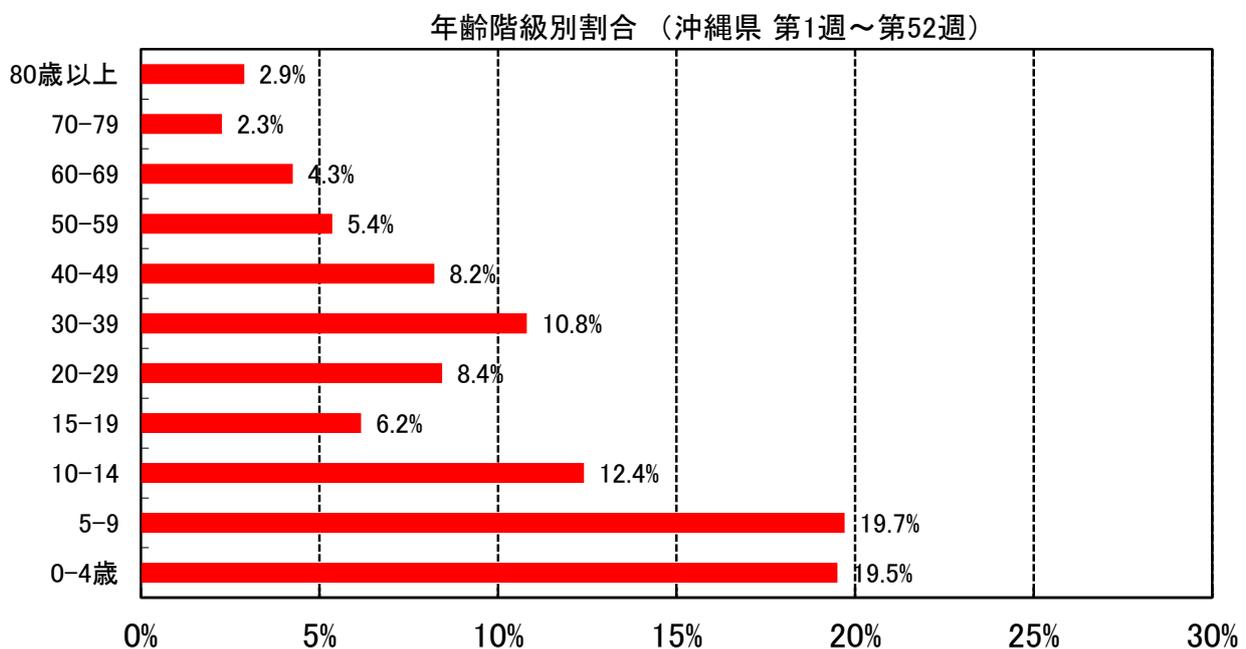
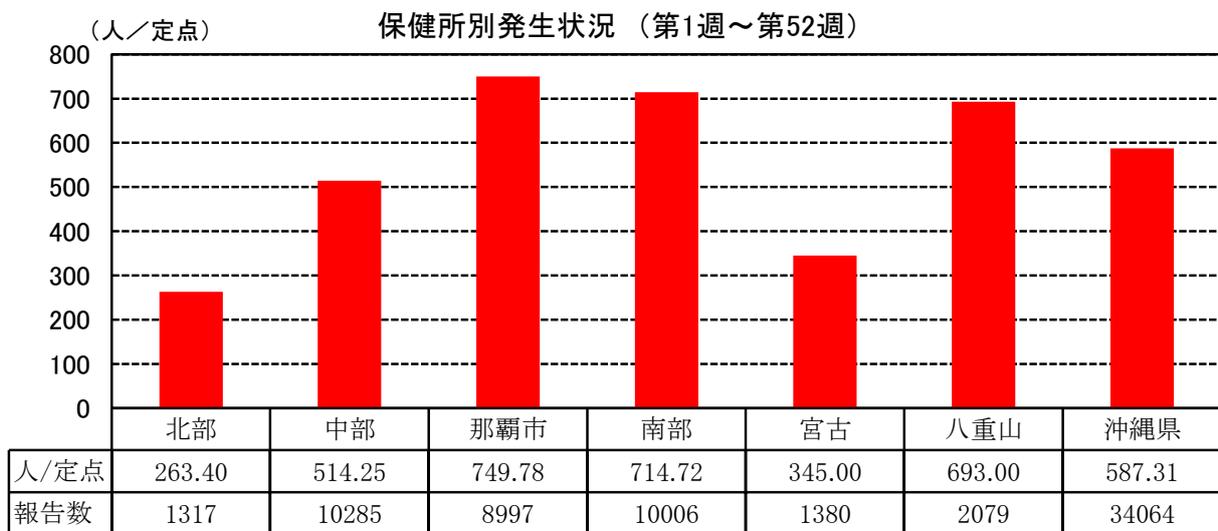
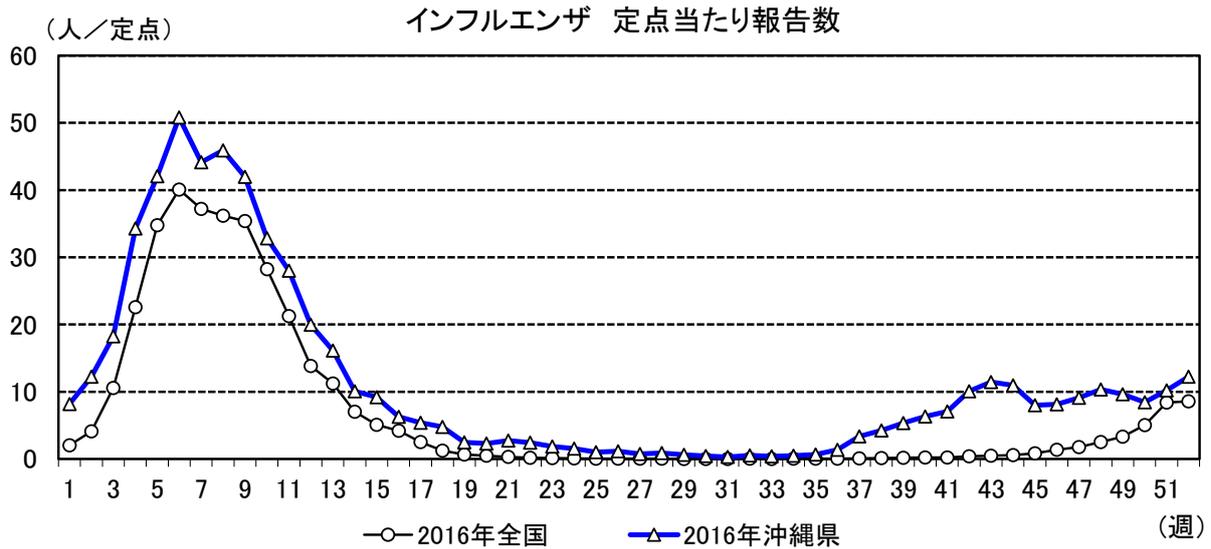


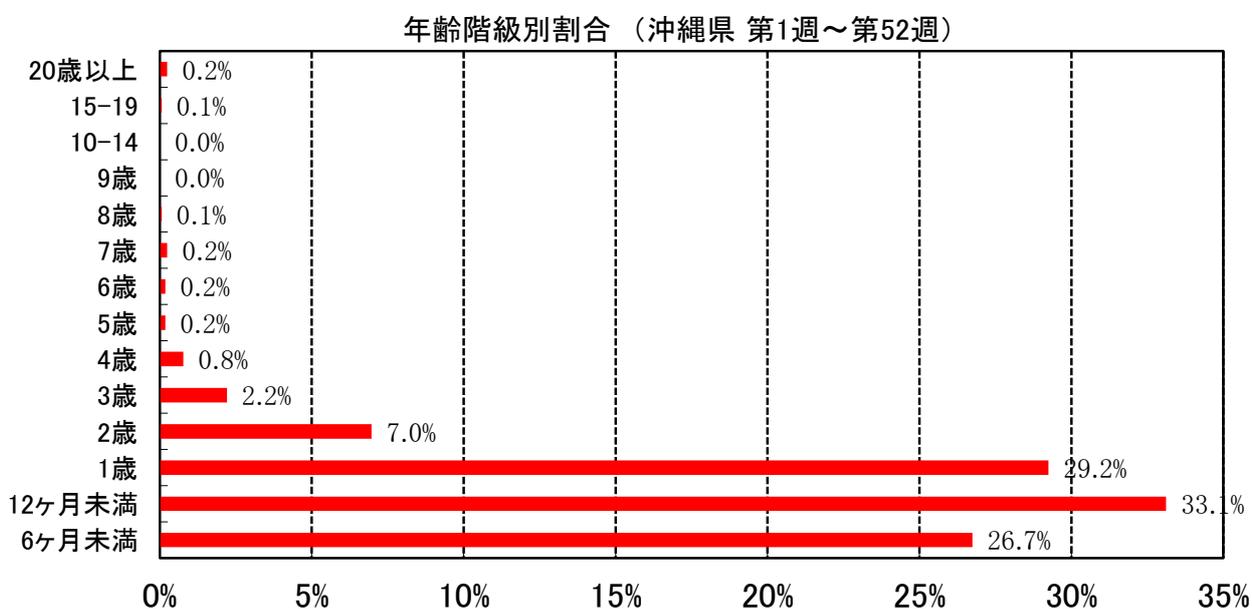
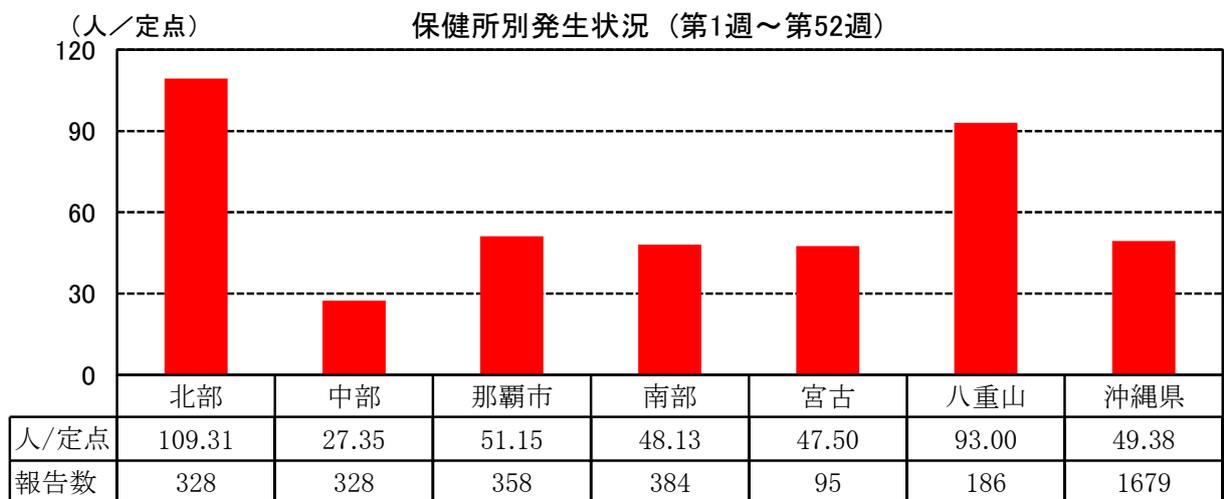
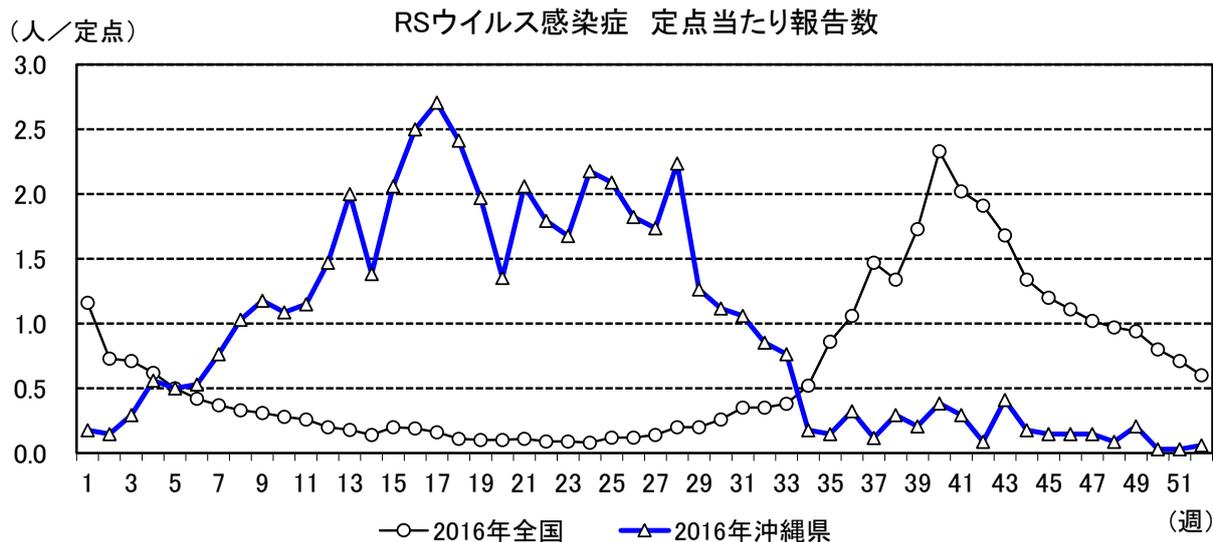
*2016年第36週～第52週

シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

平均報告数 (2016/17)を除く	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17*
28,863	32,729	21,735	29,570	32,386	27,896	7,901

*2016年9月～12月末(第36週～第52週)





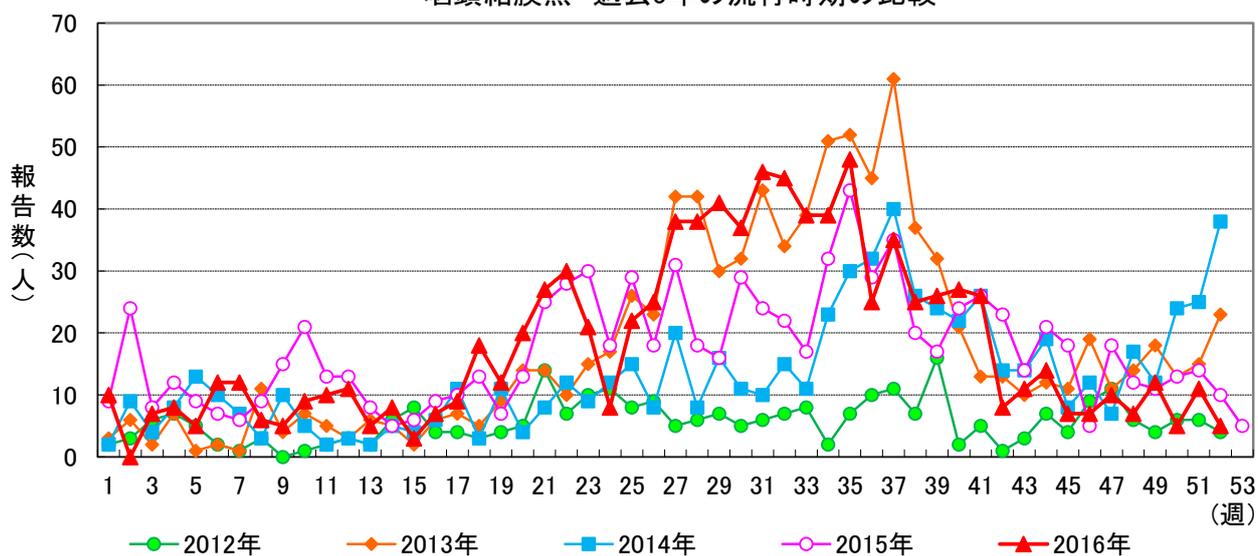
咽頭結膜熱（プール熱）

咽頭結膜熱は、アデノウイルスによる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症であり、プールを介した感染も多く、プール熱とも呼ばれている。

2016年県内の患者報告数は938人、定点当たり27.58人であり、2012年以降の5年間で2013年に次ぐ件数となった。全国では6月に多いが、本県では7月から8月にかけて多くなった。

保健所別では、南部保健所の患者報告数が53.62人/定点と最も多かった。年齢階級別では、1歳が最も多く全体の31.4%を占めていた。

咽頭結膜熱 過去5年の流行時期の比較



年次別患者発生状況の推移

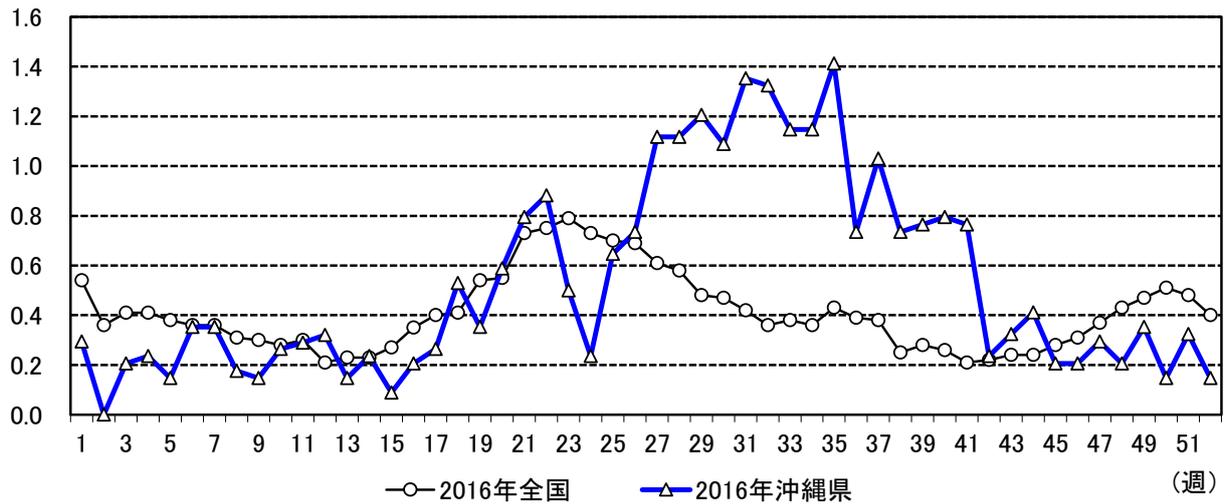


年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
756	295	944	690	912	938

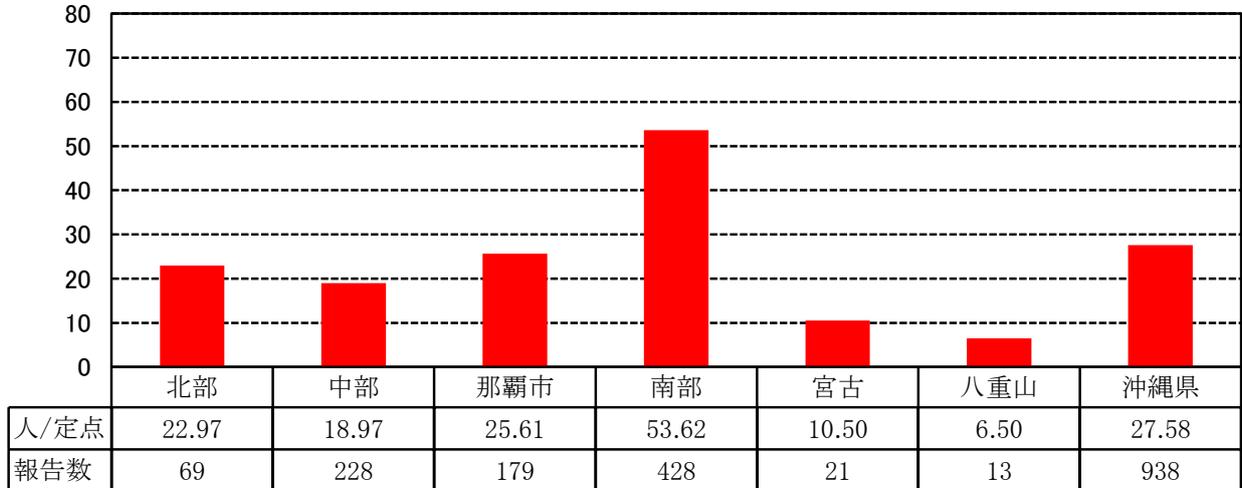
(人/定点)

咽頭結膜熱 定点当たり報告数

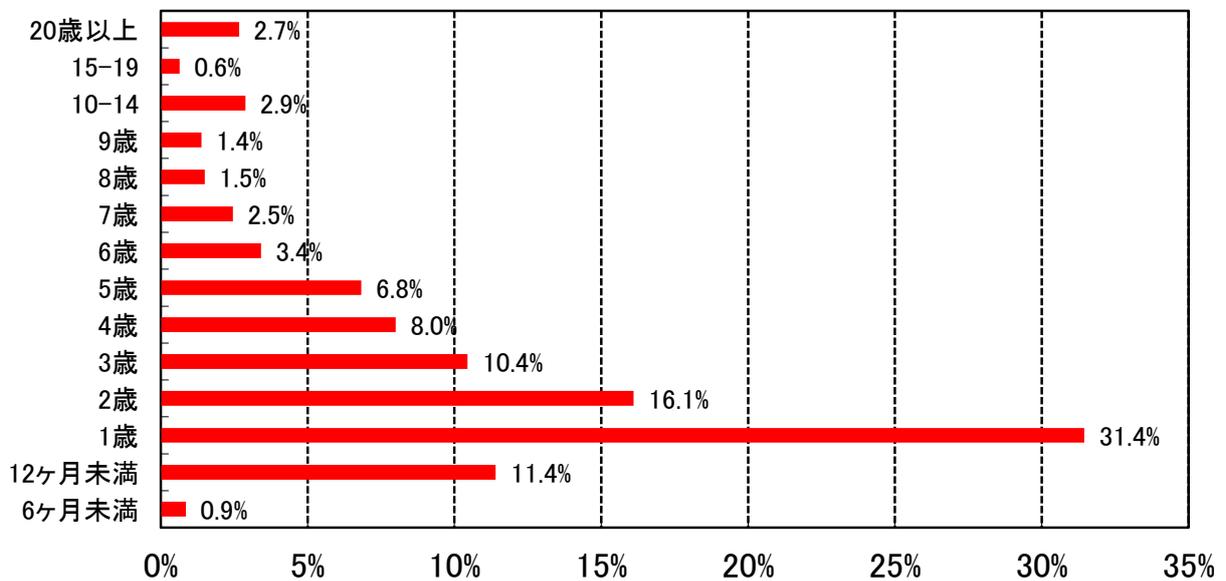


(人/定点)

保健所別発生状況 (報告数及び定点あたり報告数)



年齢階級別割合 (沖縄県)



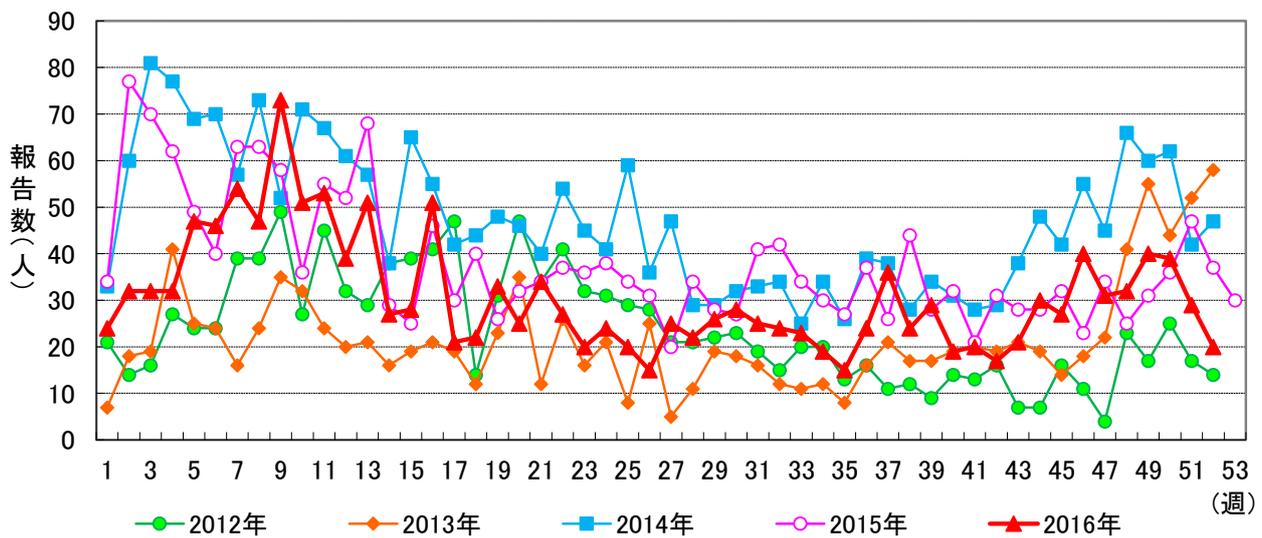
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、いずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く認められる。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱を呈する。発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

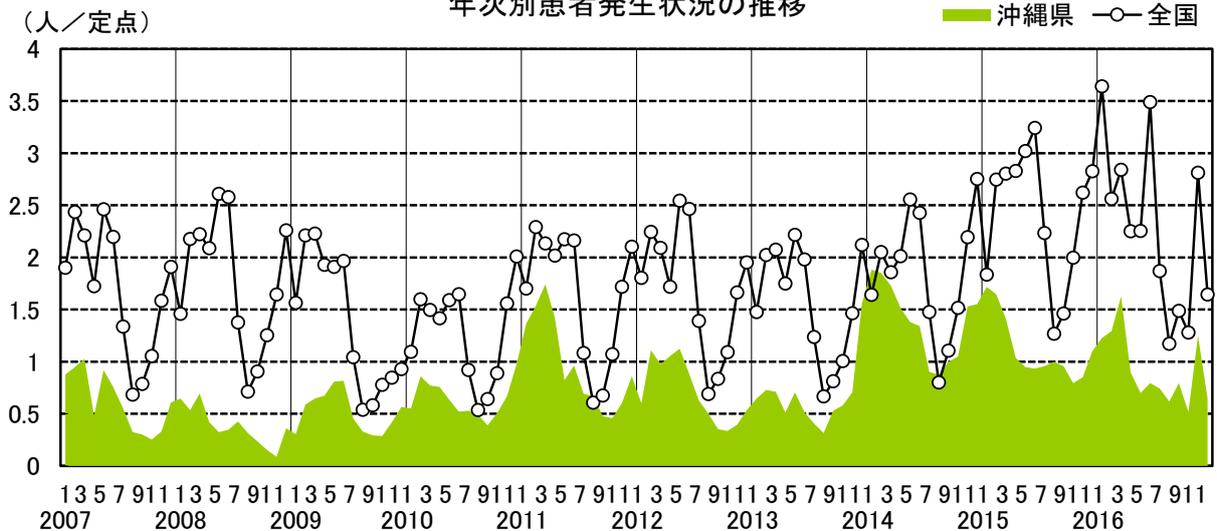
2016年県内の患者報告数は1,617人、定点当たり47.56人と前年比0.80と減少した。また県内の定点当たりの数値は、年間通して全国値を下回った。

年齢階級別では、20歳以上の報告が、20.3%と最も多くみられた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 過去5年の流行時期の比較

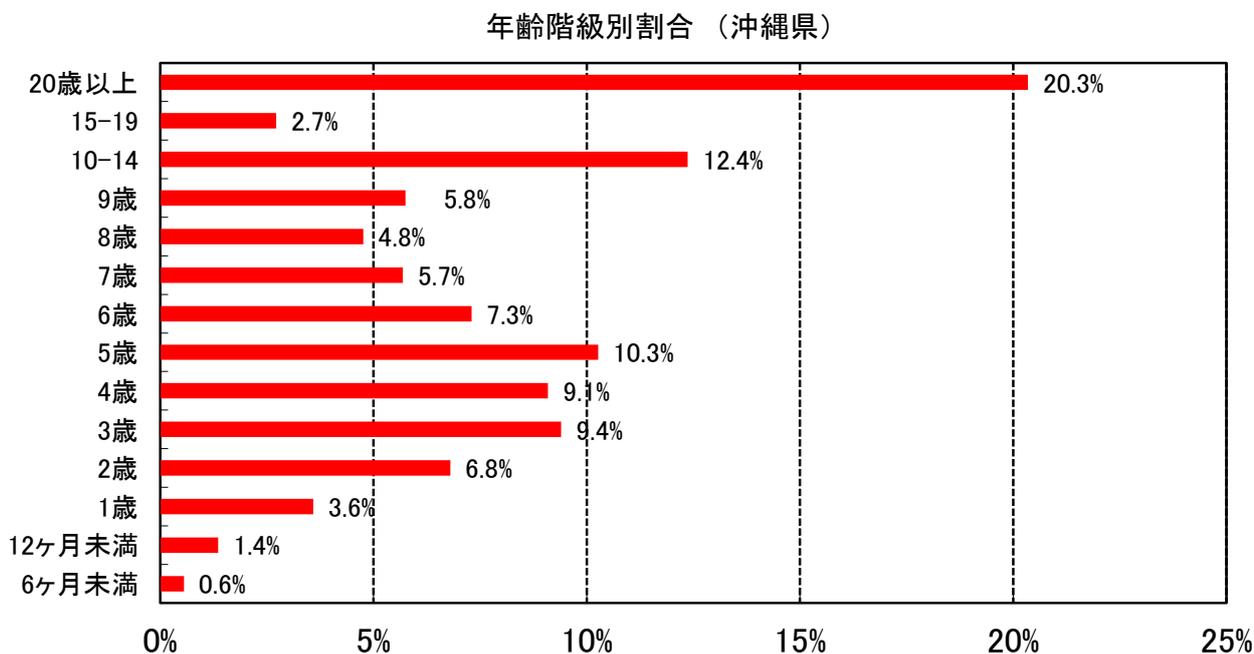
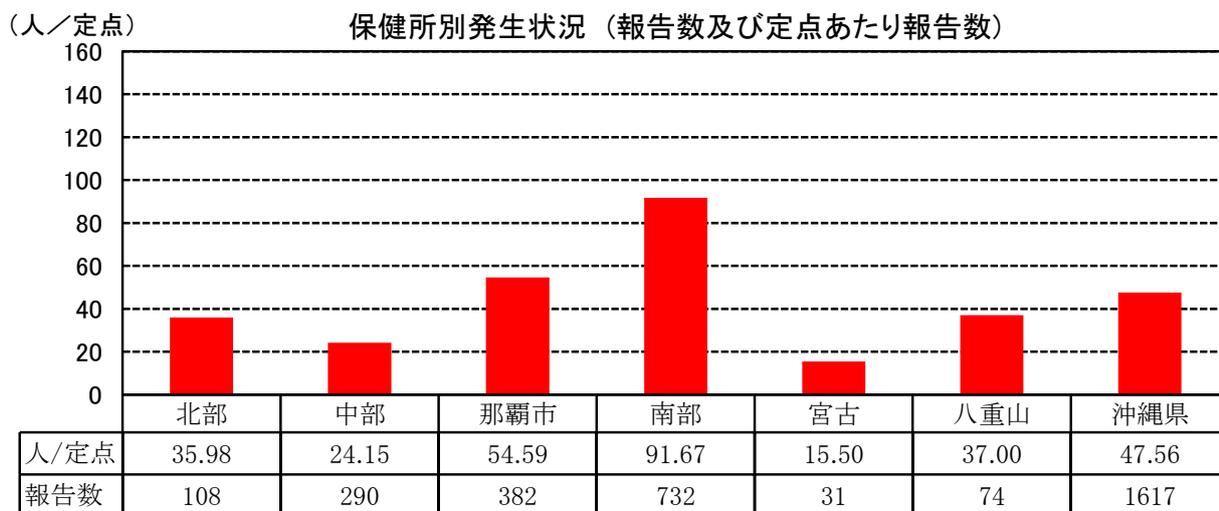
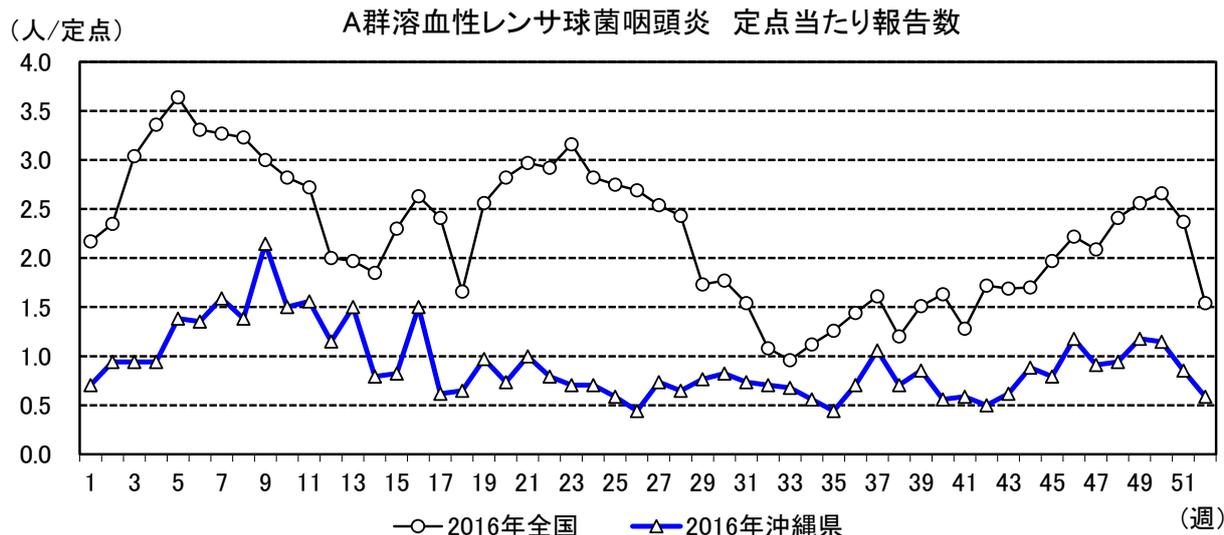


年次別患者発生状況の推移



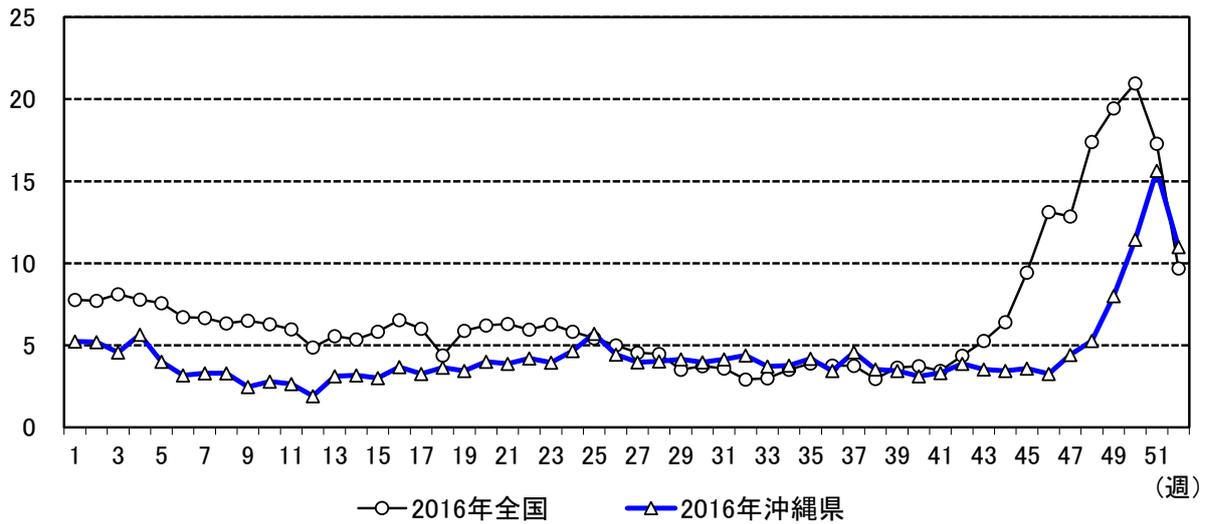
シーズン別の報告数合計: A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1,697	1,245	1,144	2,462	2,018	1,617



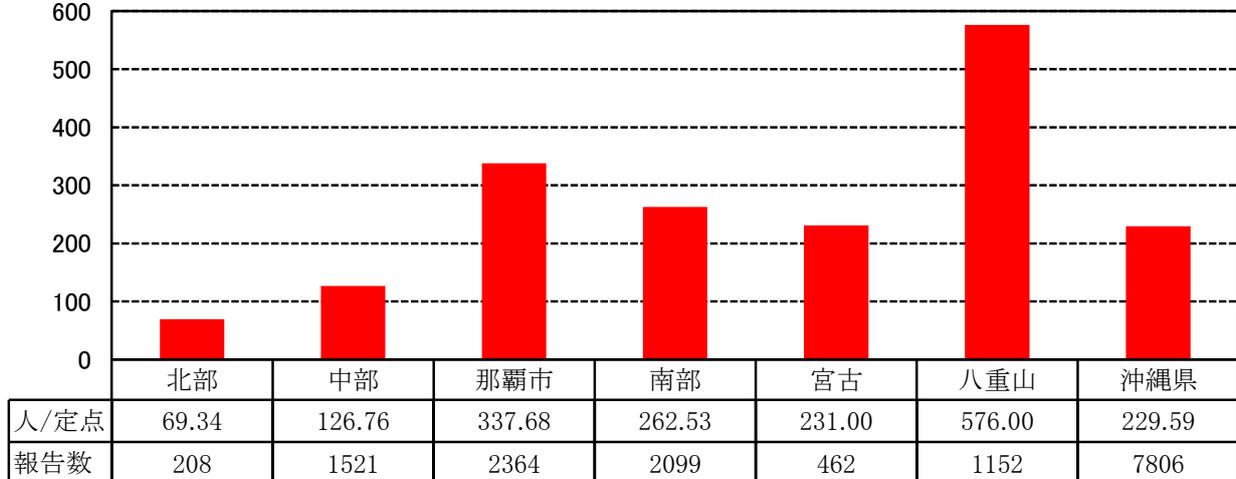
(人/定点)

感染性胃腸炎 定点当たり報告数

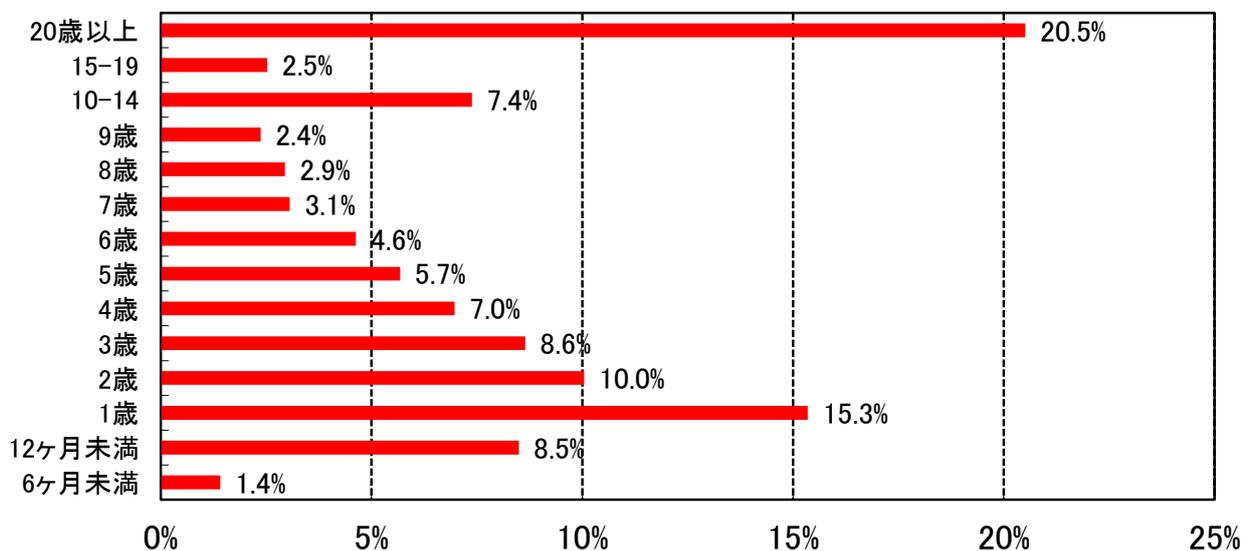


(人/定点)

保健所別発生状況 (第1週～第52週)



年齢階級別割合 (沖縄県 第1週～第52週)



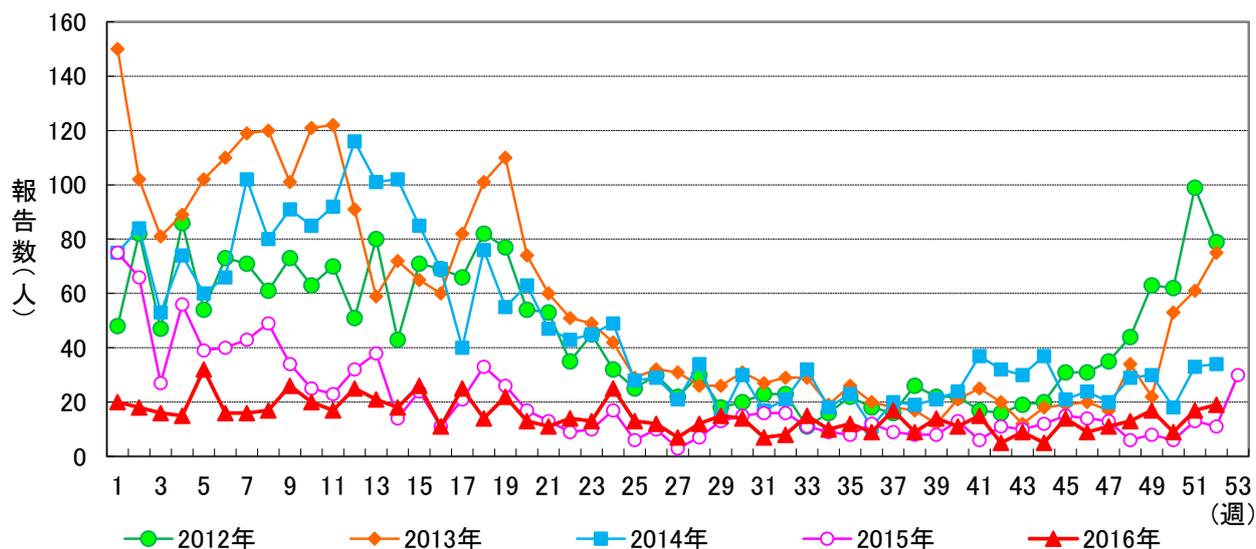
水痘

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）によって起こる急性の伝染性疾患である。例年12月～7月に患者発生報告が多く、罹患年齢はほとんどが9歳以下であることが知られている。

2016年県内の患者報告数は779人、定点当たり22.92人であり、前年比0.73と減少した。2014年10月から定期予防接種の対象（1歳以降に2回、弱毒生ワクチン）となったことが要因と思われる。県内では、以前は1月～5月にかけて流行がみられたが、2016年は季節による変動は小さくなった。保健所単位では八重山保健所管内にて延べ第3週間、注意報レベルに達した。

年齢階級別では、1歳が最も多く全体の16.9%、続いて5歳が13.2%、4歳12.8%を占めていた。

水痘 過去5年の流行時期の比較

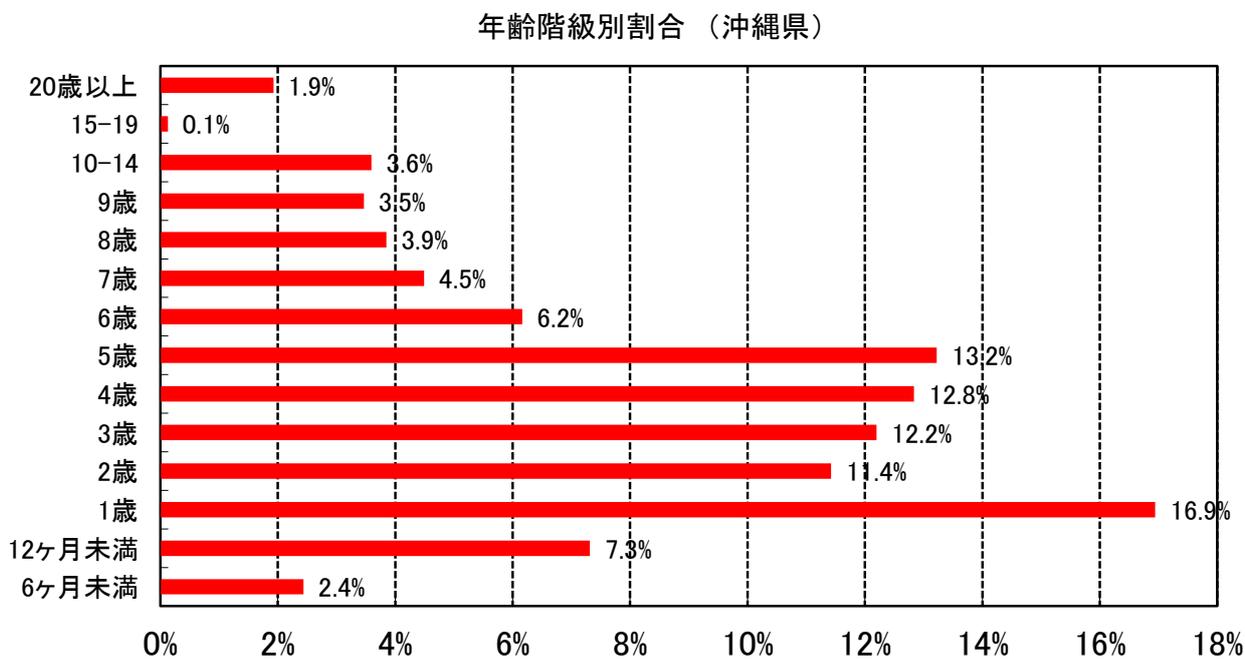
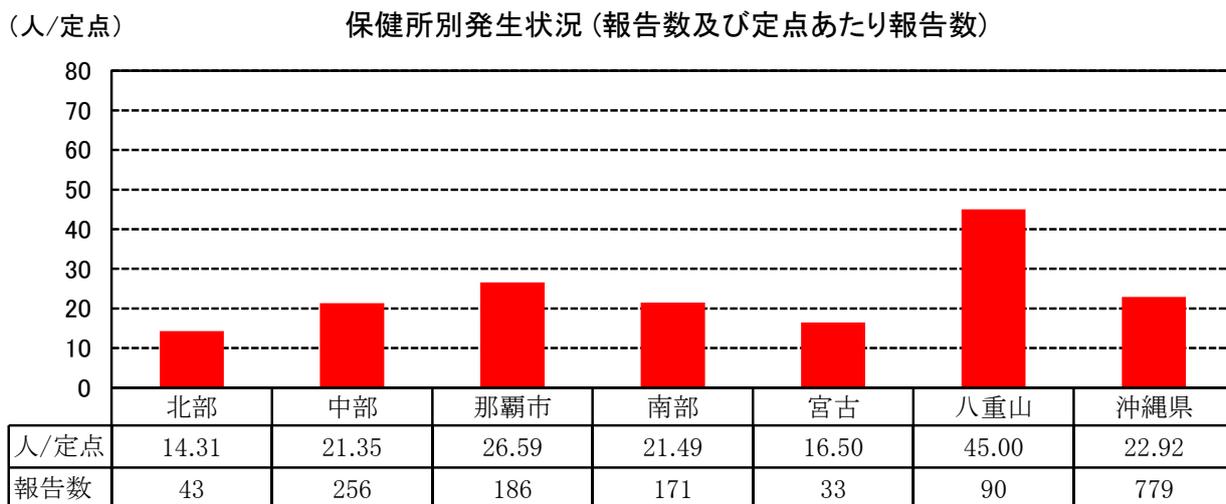
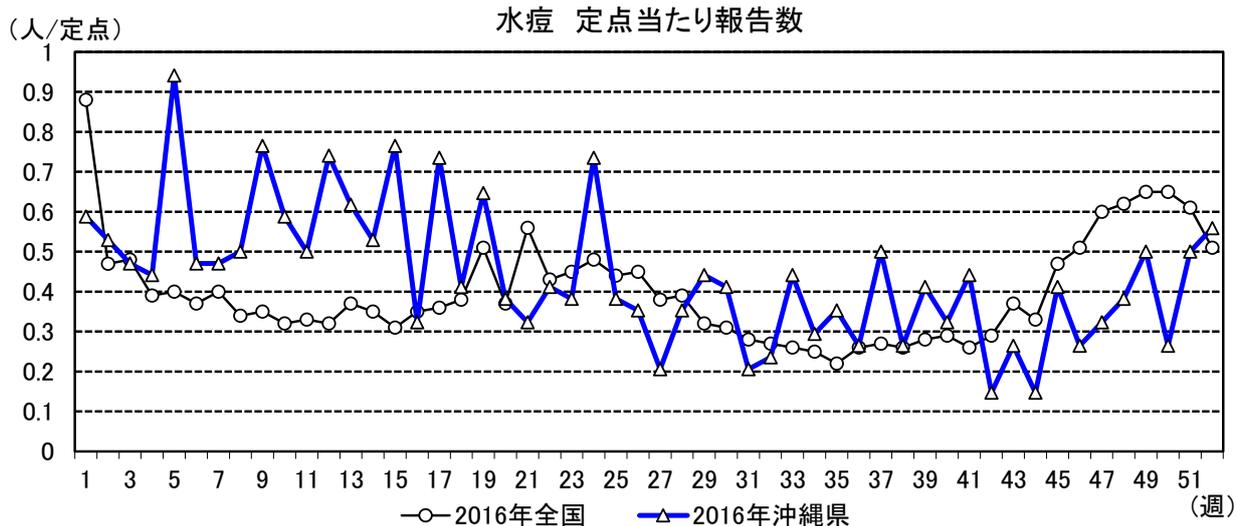


年次別患者発生状況の推移



シーズン別の報告数合計:水痘

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1,910	2,346	2,902	2,460	1,061	779

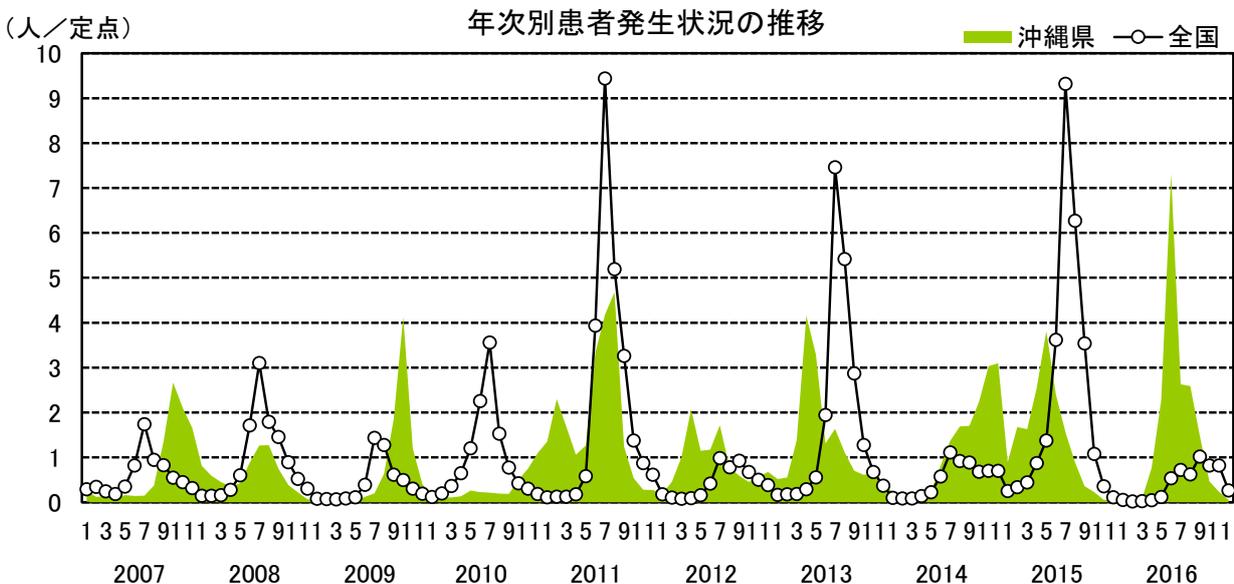
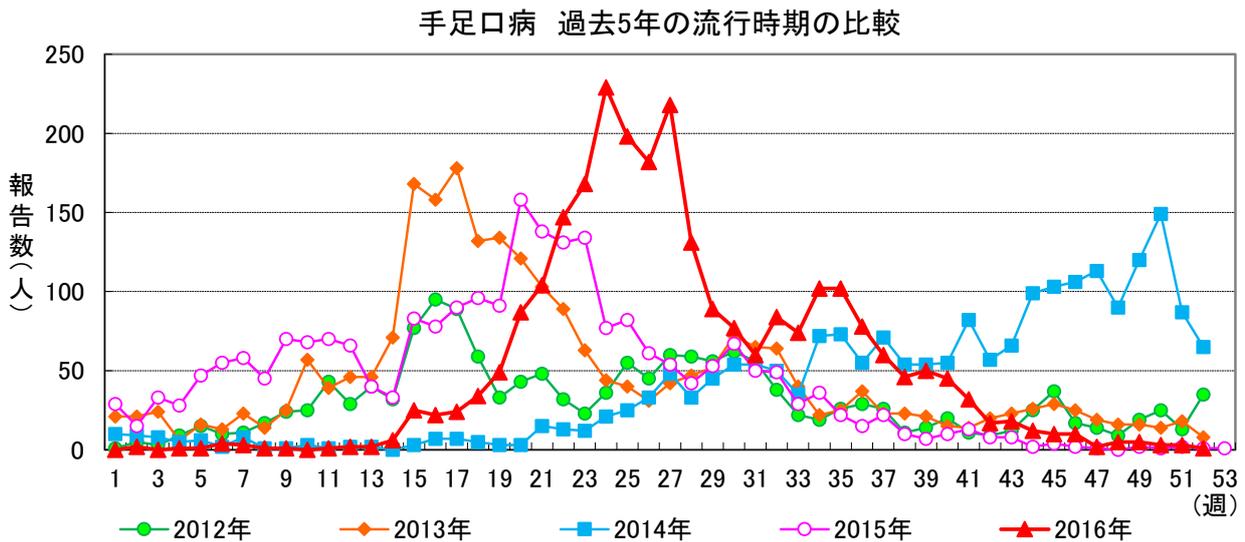


手足口病

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られる。コクサッキーA16（CA16）、CA10、CA6、エンテロウイルス71（EV71）などが起因ウイルスである。EV71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られている。

2016年県内の患者報告数は2,627人、定点当たり77.27人であり、前年比1.10と増加した。6月から7月（第24週から30週）にかけて県全域で警報レベルに達し、6月の定点当たりの報告数は2007年以降で最多となった。

年齢階級別では、1歳が最も多く、全体の42.1%を占めていた。

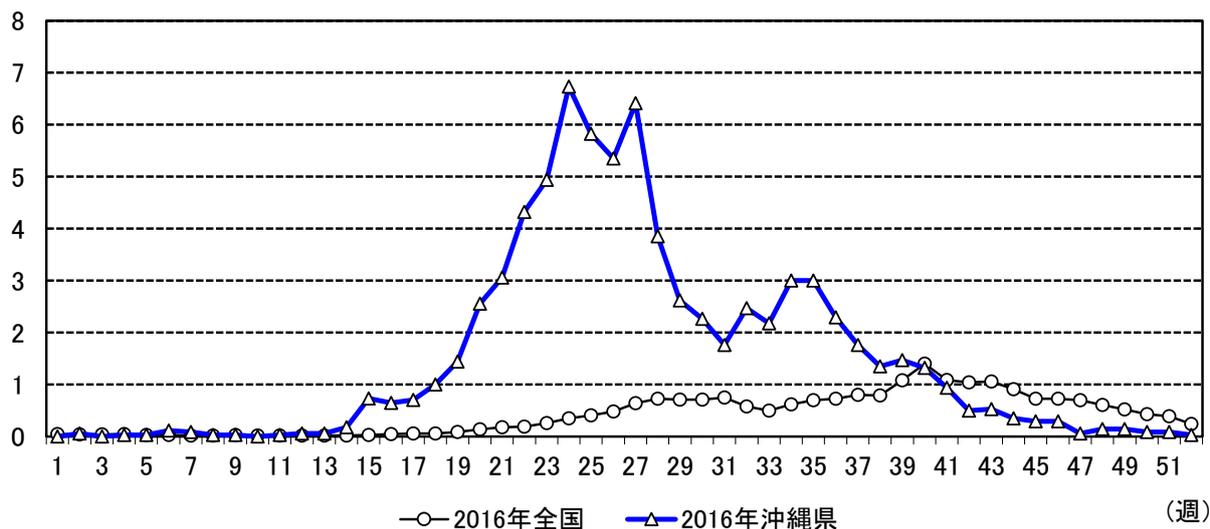


シーズン別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	2,238	1,623	2,459	2,095	2,627

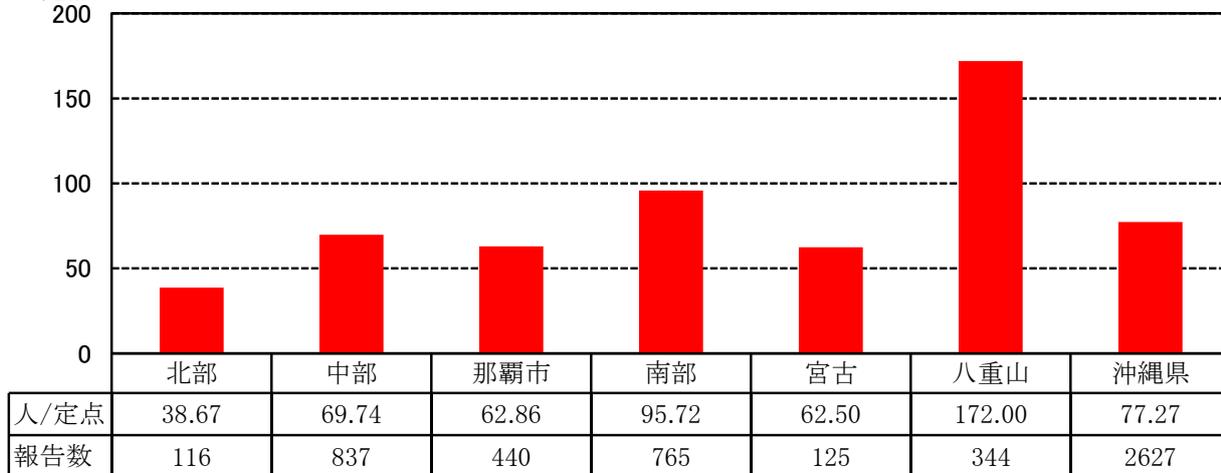
(人/定点)

手足口病 定点当たり報告数

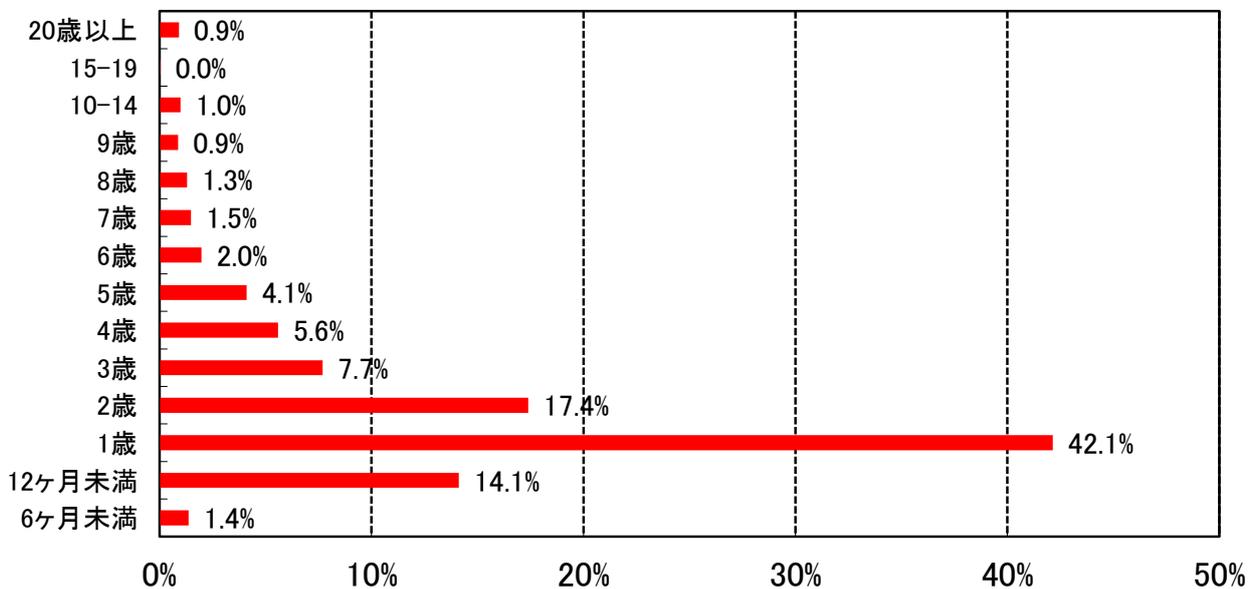


(人/定点)

保健所別発生状況 (報告数及び定点あたり報告数)



年齢階級別割合 (沖縄県)

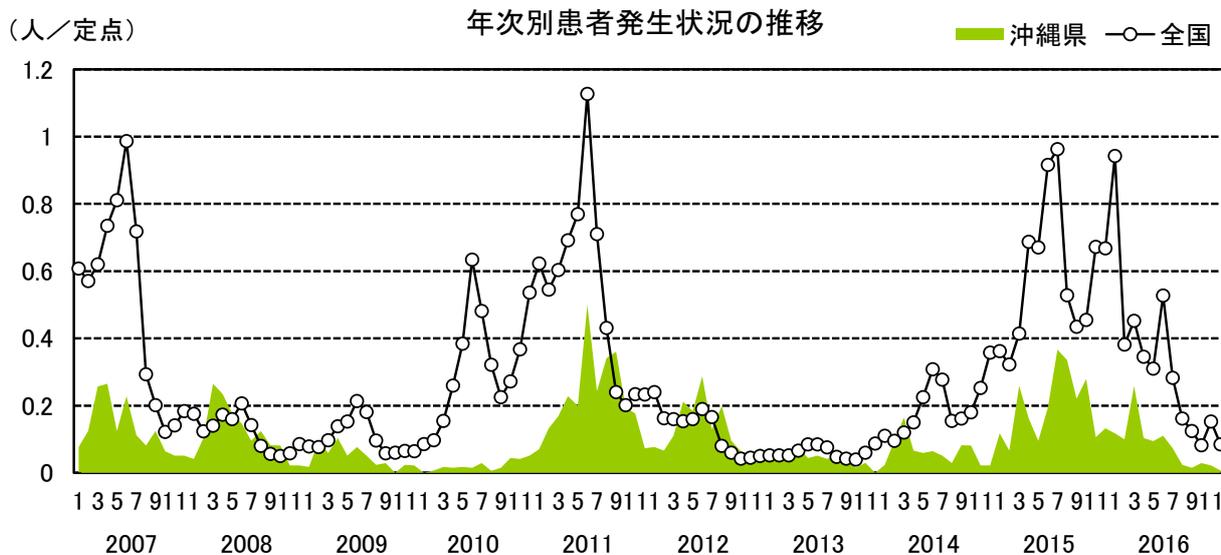
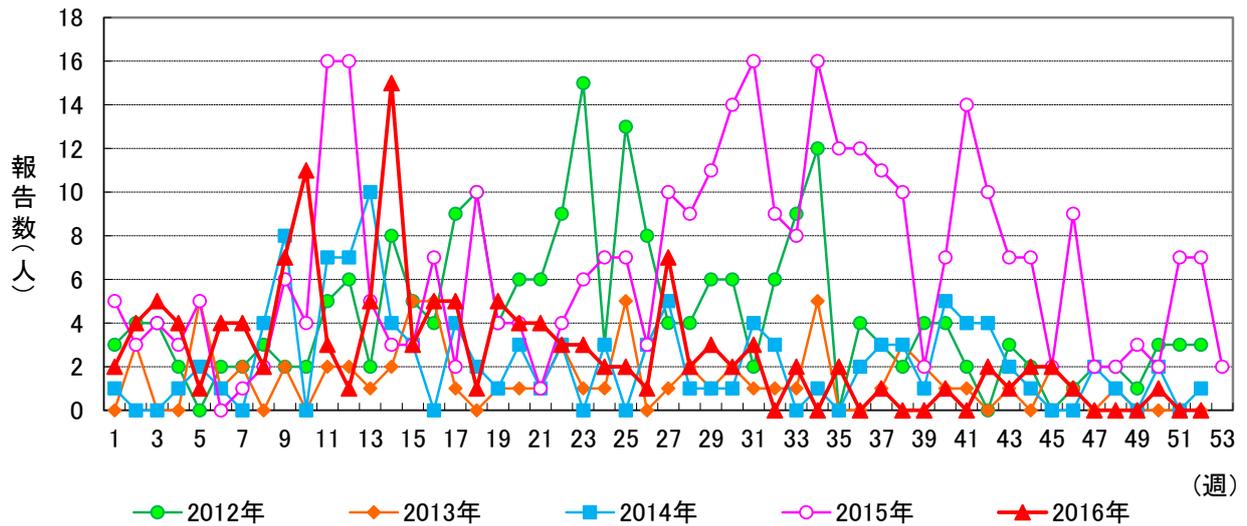


伝染性紅斑

伝染性紅斑は、頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児を中心としてみられる流行性発疹性疾患である。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもある。1月から7月にかけて報告数が増加し、9月頃最も少なくなるという流行パターンを呈する。

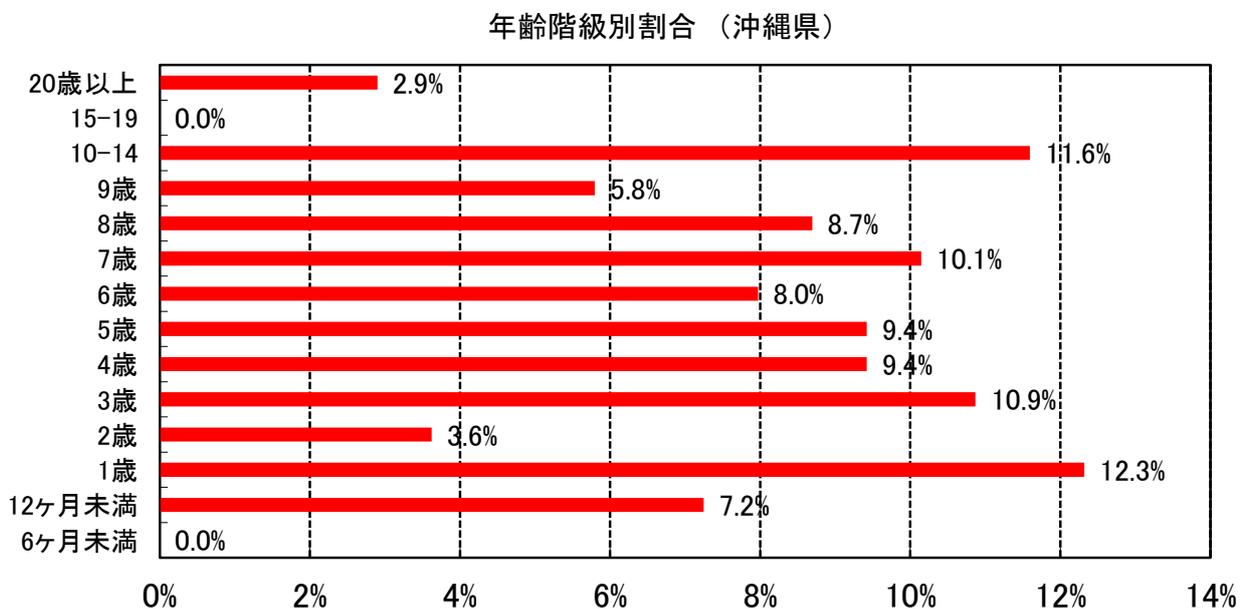
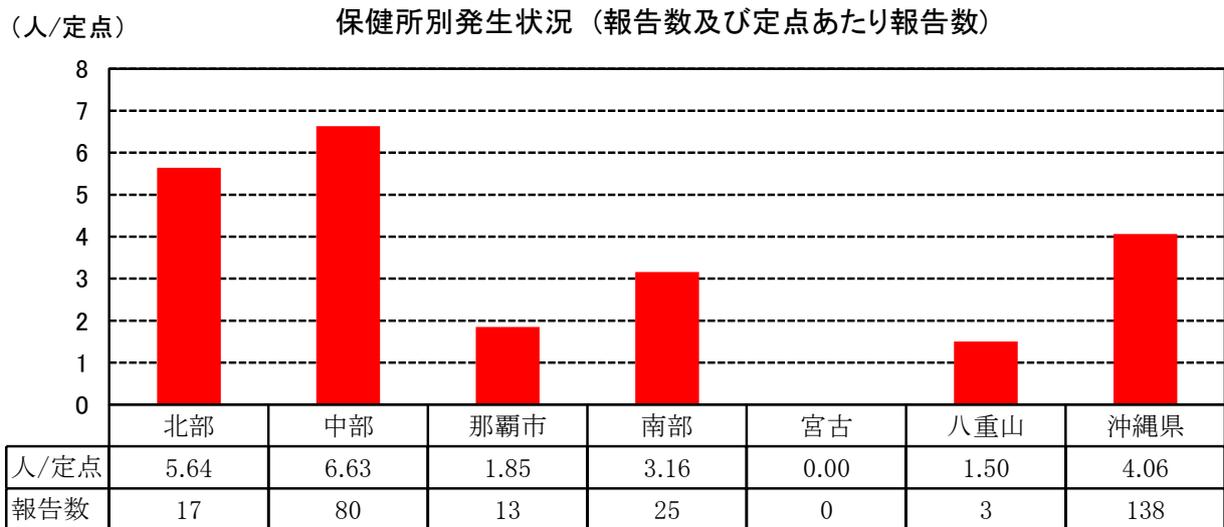
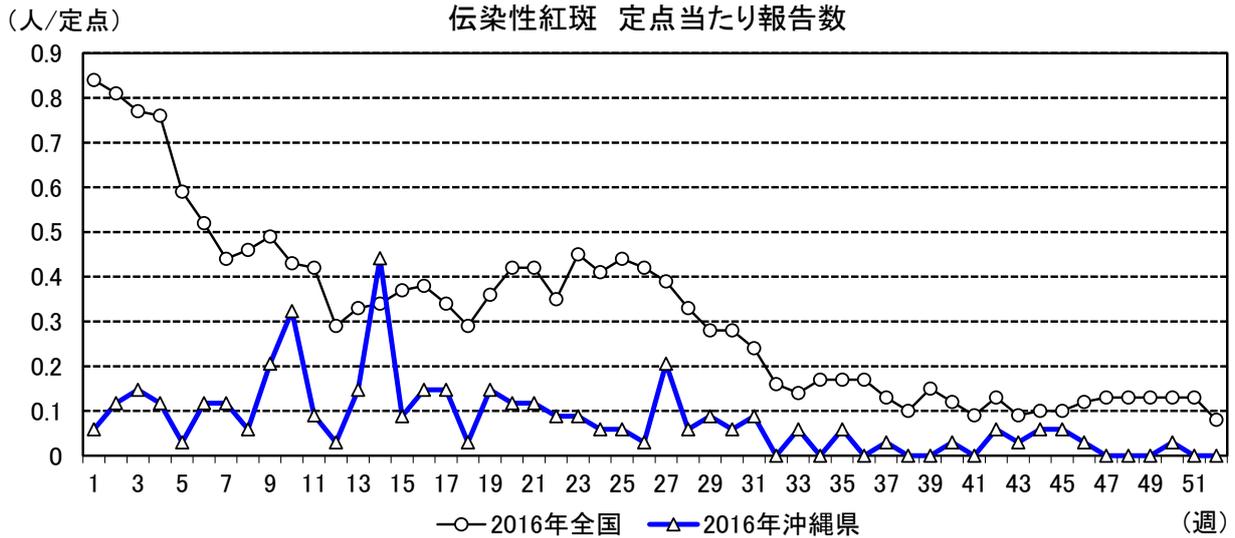
2016年県内の患者報告数は138人、定点当たり4.06人であり、前年比0.39と大幅に減少し、年間を通して警報レベルを下回った。年齢階級別では、12ヶ月未満から成人まで幅広く分布していた。

伝染性紅斑 過去5年の流行時期の比較



シーズン別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
180	225	71	115	352	138

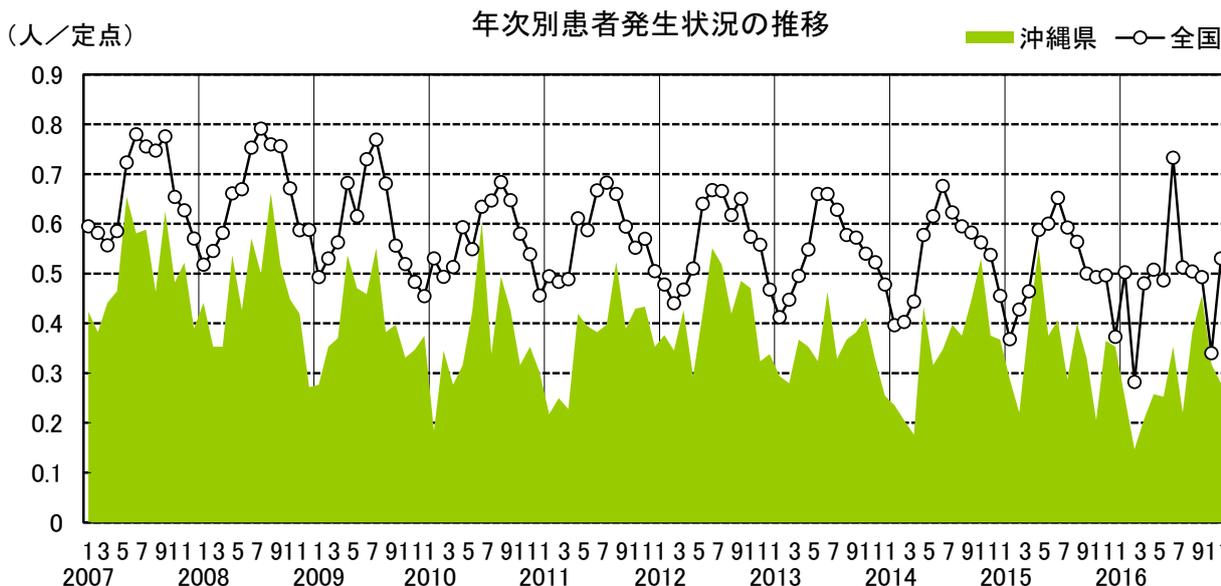
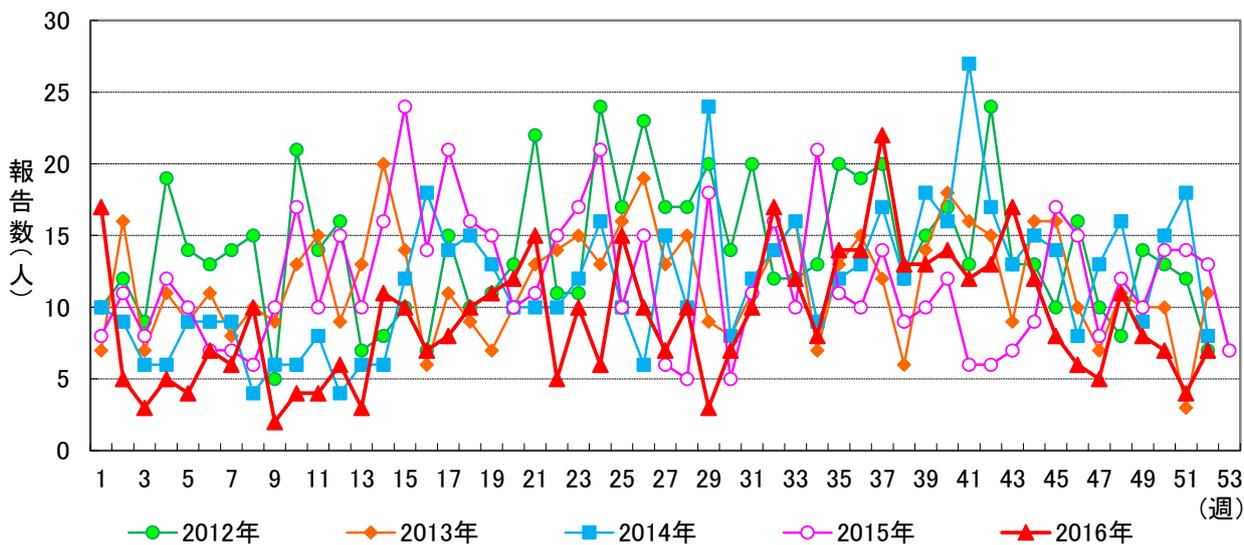


突発性発疹

突発性発疹は、乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好である。原因ウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6あるいは7であることが多い。

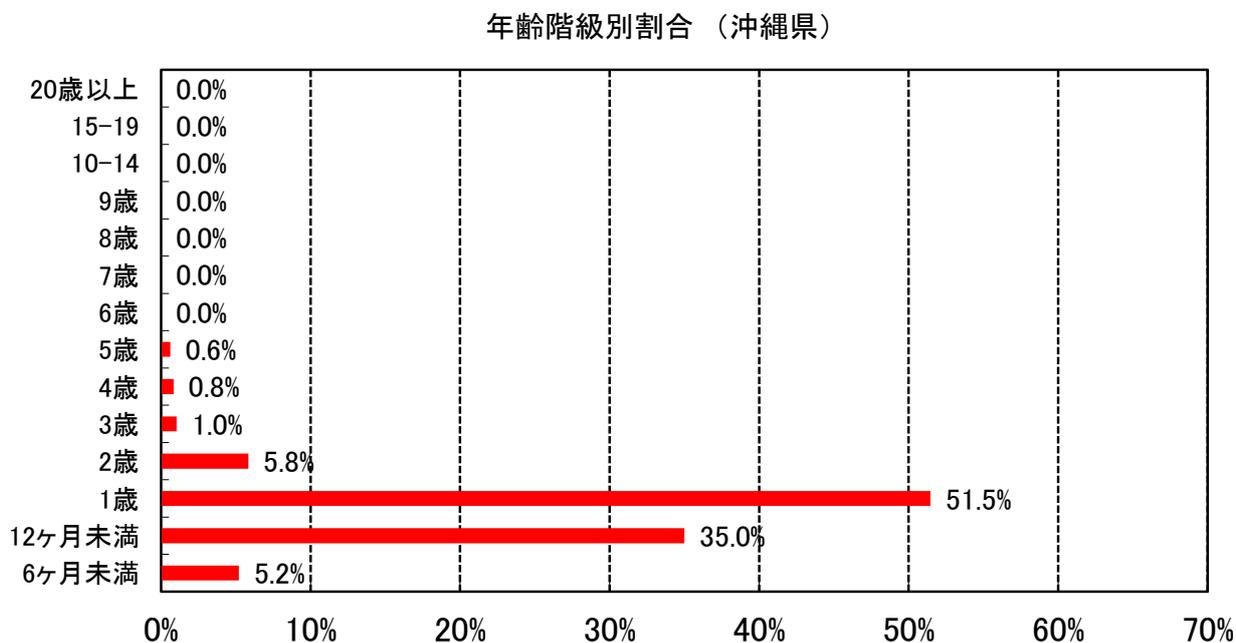
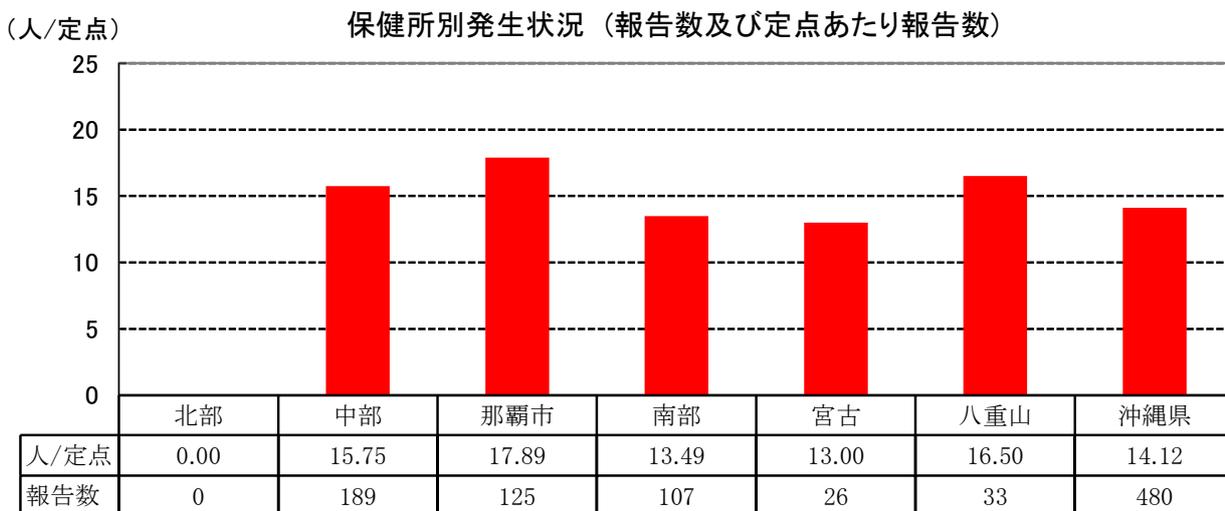
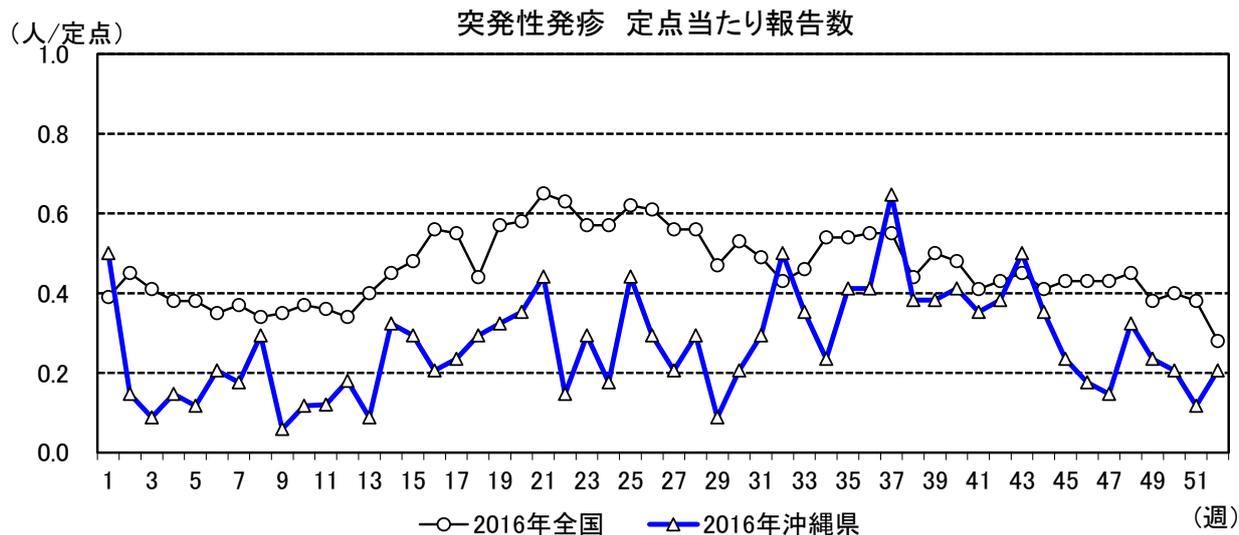
2016年県内の患者報告数は480人、定点当たり14.12人であり、前年比0.76と減少した。年齢階級別の患者報告数は、1歳が51.5%を占めた。

突発性発疹 過去5年の流行時期の比較



シーズン別の報告数合計：突発性発疹

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
613	732	610	613	632	480



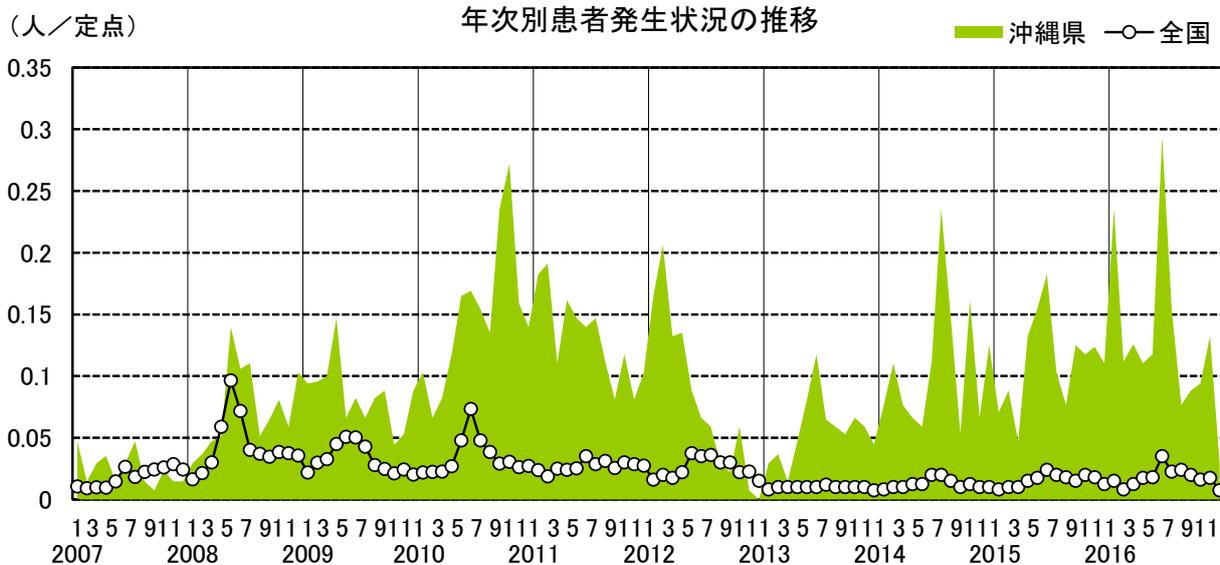
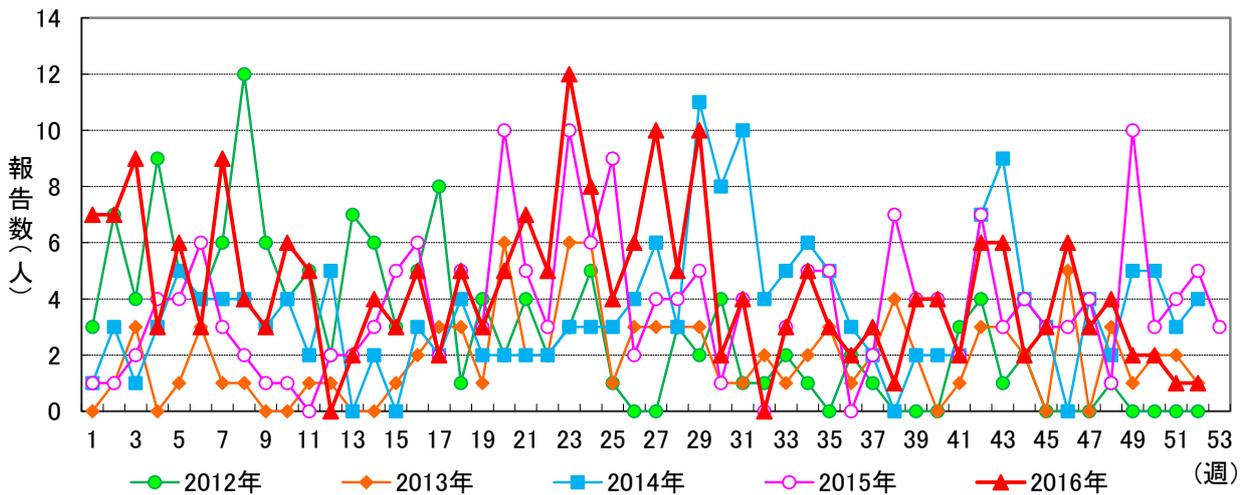
百日咳

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症である。母親からの免疫（経胎盤移行抗体）が期待できないため、乳児期早期から罹患し、1歳以下の乳児、ことに生後6カ月以下では死に至る危険性も高い。百日せきワクチンによる免疫効果は5～10年程度であるため、ワクチン既接種の成人も感染する。成人が感染した場合、症状が軽いため本人が気づかないうちに乳幼児への感染源となることがあり、注意が必要である。

2016年県内での患者報告数は227人、定点当たり6.68人であった。ほぼ年間を通して、定点あたりの報告数が全国より多いが、警報レベルに達した保健所管内はなかった。

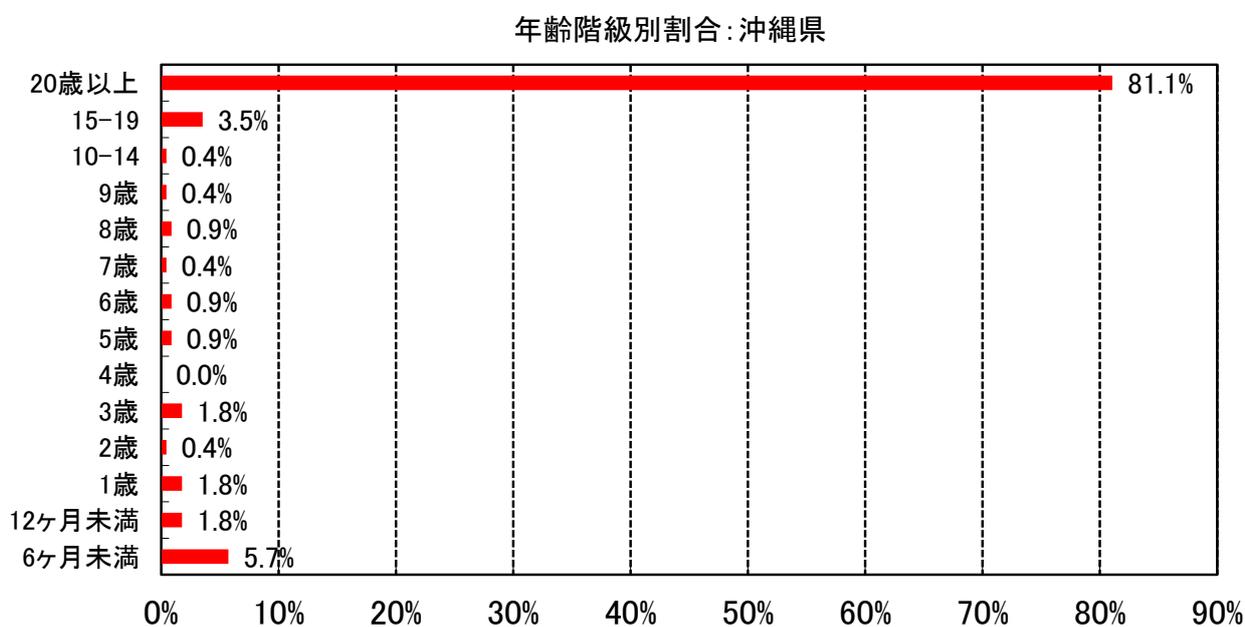
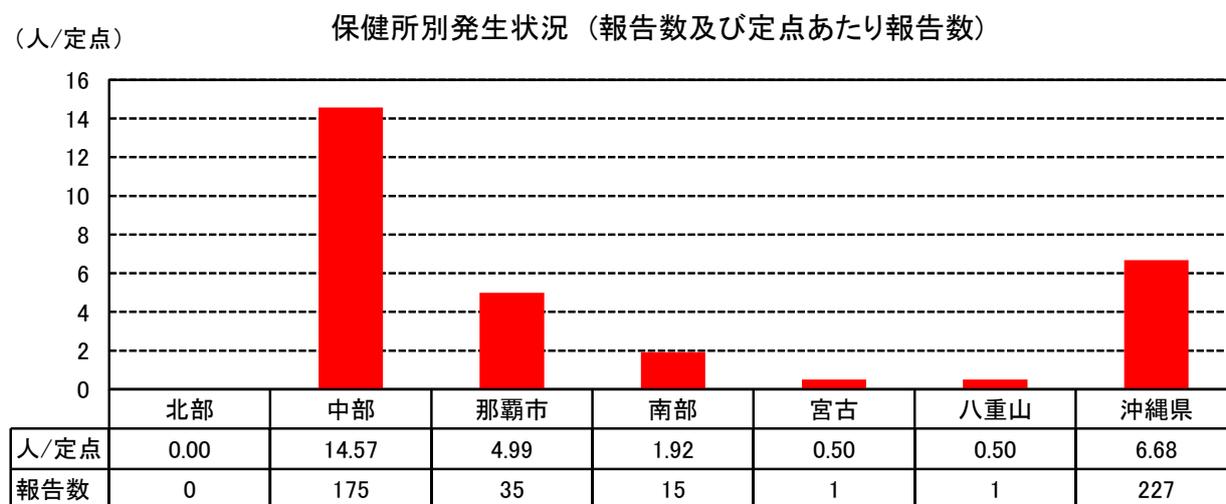
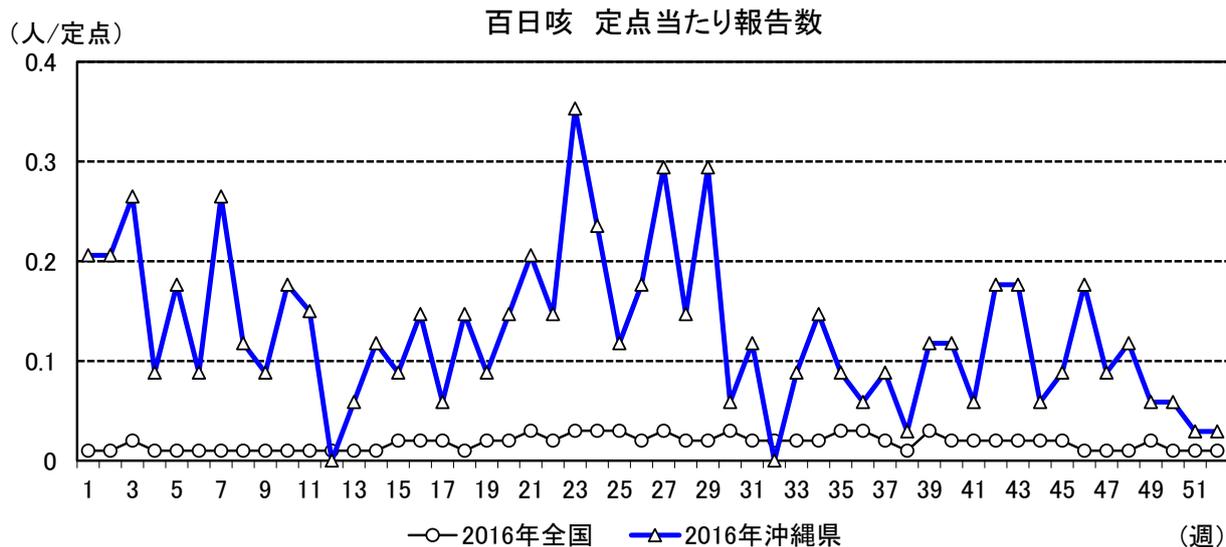
年齢階級別では、全国は10-14歳（22.6%）と20歳以上（21.8%）で報告が多いが、県内では20歳以上が81.1%、6ヶ月未満が5.7%と年齢構成が異なる。

百日咳 過去5年の流行時期の比較



シーズン別の報告数合計：百日咳

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
171	146	99	186	198	227

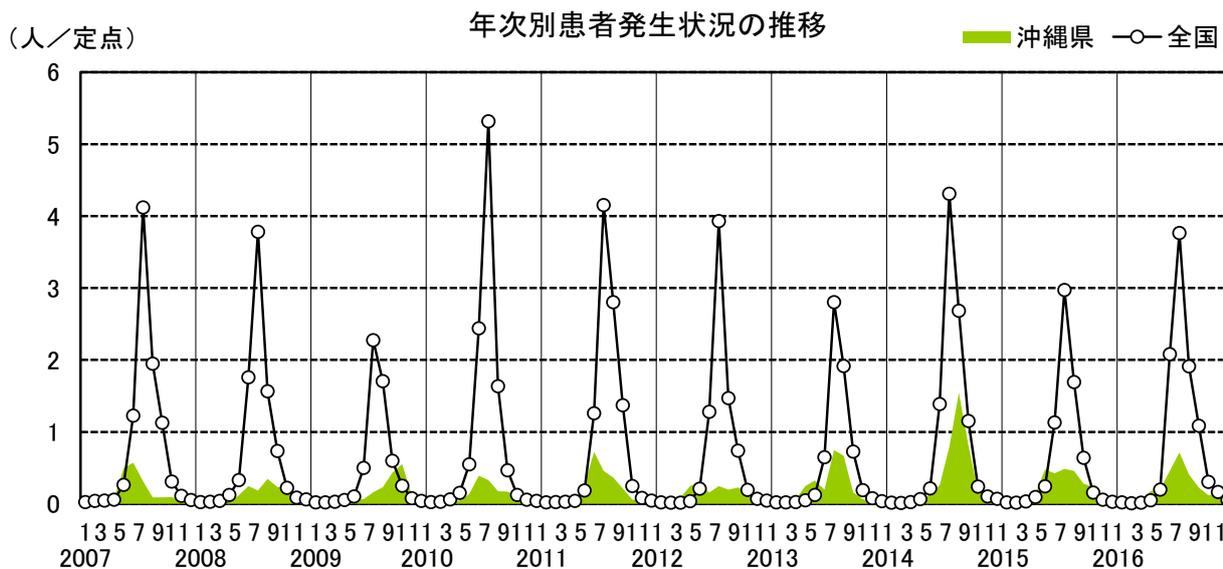
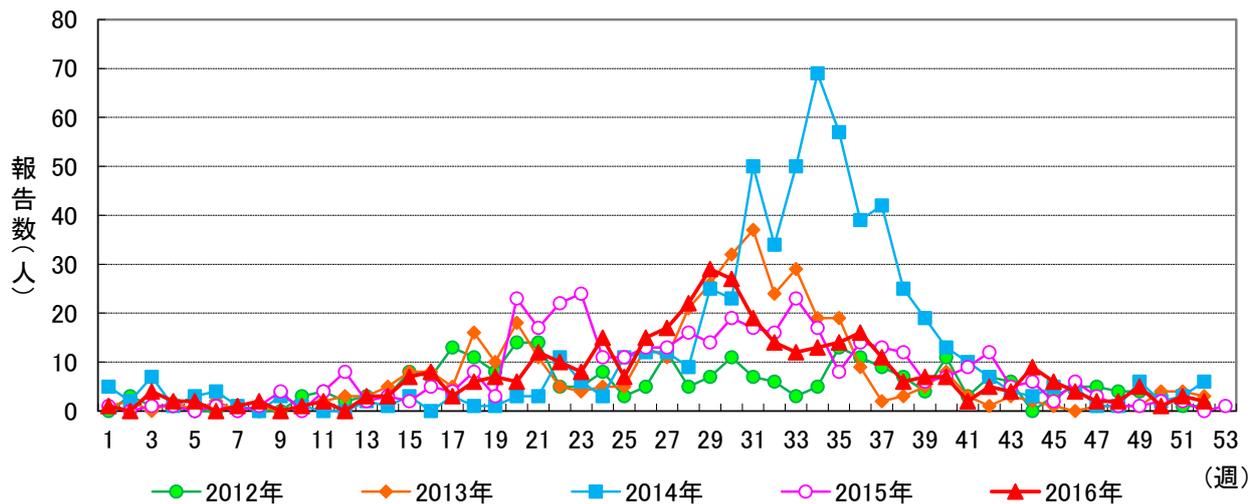


ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、エンテロウイルス属、特にA群コクサッキーウイルスを主原因とする感染症である。発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する夏かぜの代表的疾患である。

2016年県内の患者報告数は384人、定点当たり11.30人であり、前年比0.93とやや減少した。八重山保健所管内で、第29週から第34週（7月から8月）まで警報レベルが継続した。年齢階級別では、1歳の患者報告数が最も多く全体の36.2%を占めていた。

ヘルパンギーナ 過去5年の流行時期の比較

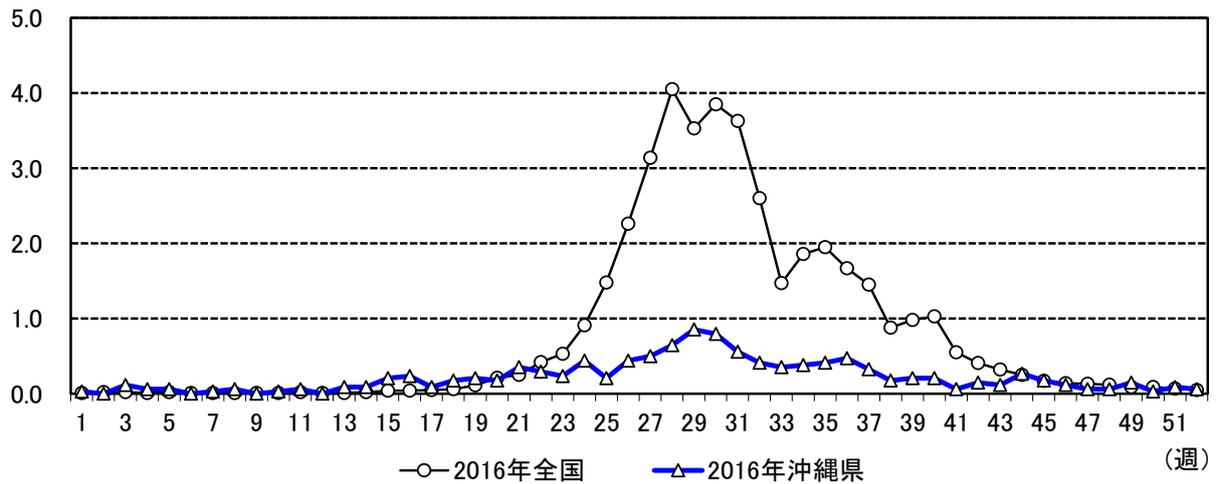


シーズン別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
416	275	399	607	414	384

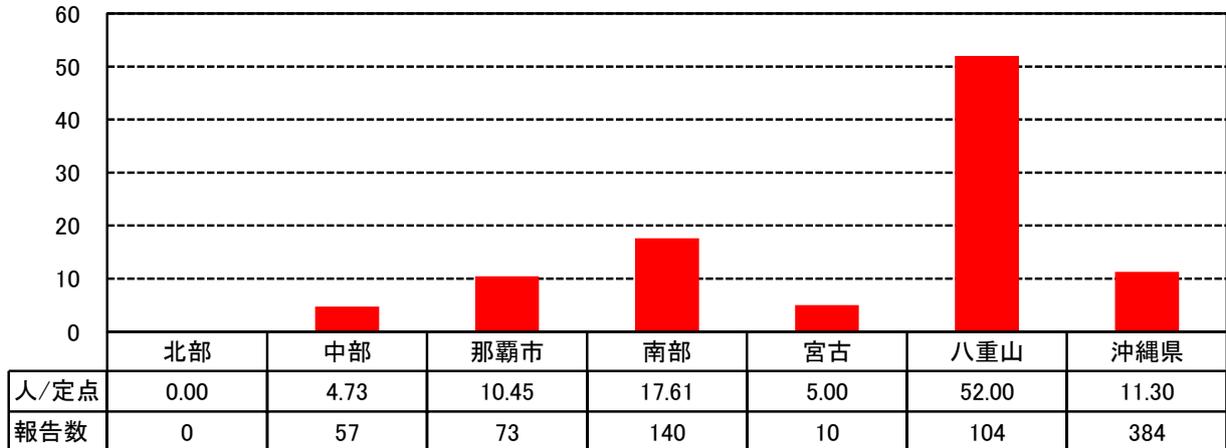
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点あたり報告数

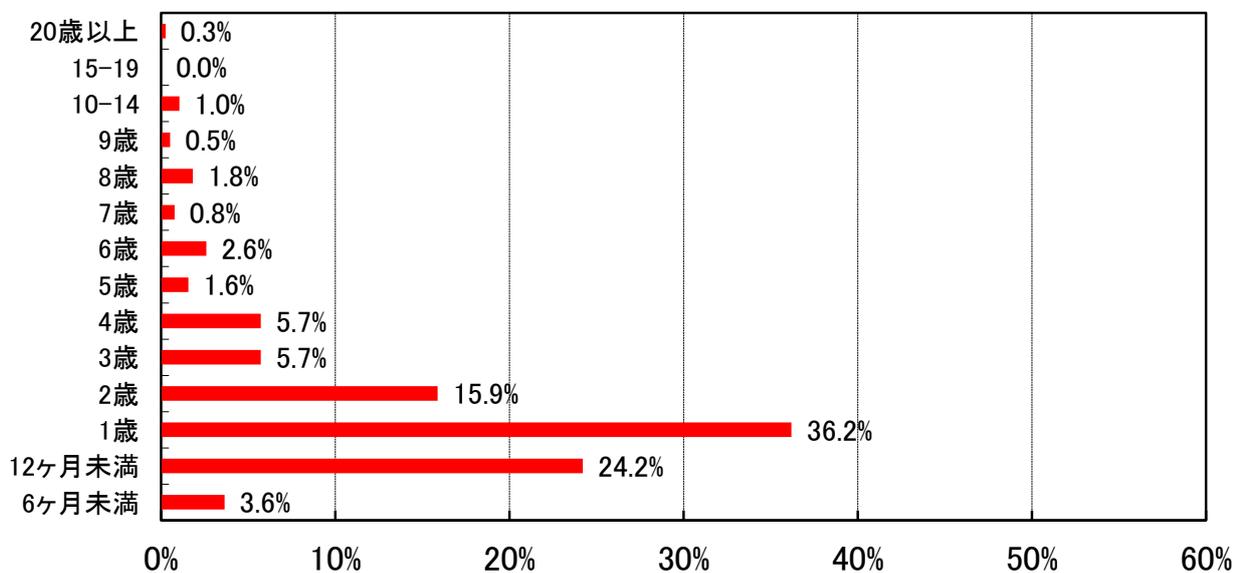


(人/定点)

保健所別発生状況 (報告数及び定点あたり報告数)



年齢階級別割合 (沖縄県)



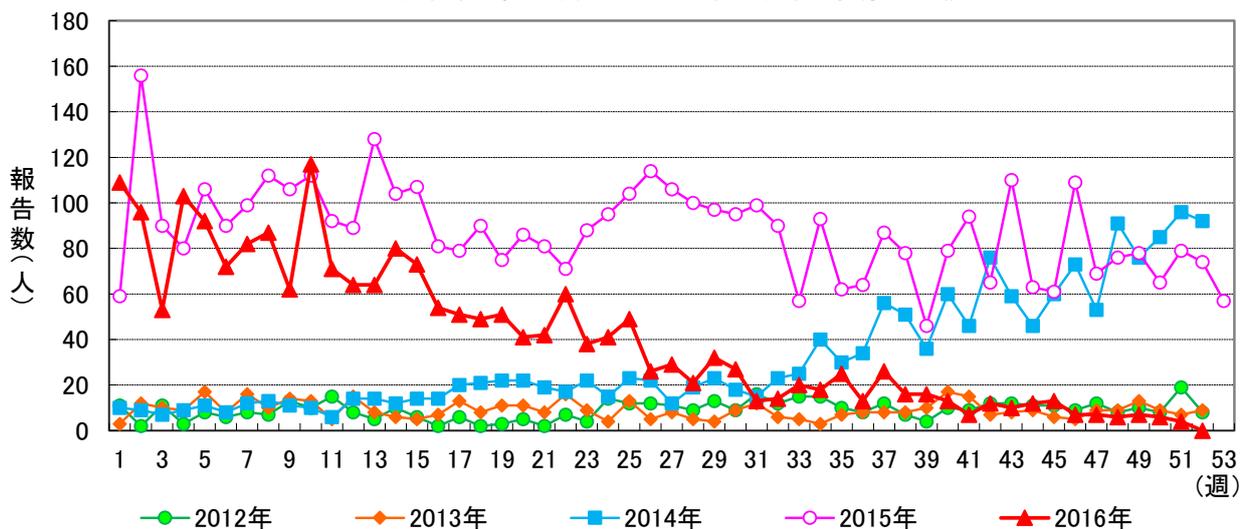
流行性耳下腺炎

流行性耳下腺炎は、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするムンプスウイルスによる感染症である。本疾患は全国でも毎年、3～4年周期での患者増加がみられており、本県でも概ね4年周期で増加が認められている。前回の増加期は2009年（2,295人）、2010年（3,530人）、2015年（4,647人）であった。

2016年県内の患者報告数は2,101人、定点当たり61.79人であり、前年からの流行を継続、収束する形をとった。県全体の注意報レベルは延べ3週であったが、保健所単位では、宮古保健所管内が前年の第41週（10月）から第15週（4月）まで、八重山保健所管内が前年の第50週（12月）から第46週（11月）まで警報レベルが継続し、流行が長期化した。

年齢別では5歳をピークに3歳から8歳で69.0%を占めた。また加齢に伴い、難聴などの合併症の発症率も高くなるといわれるが、20歳以上の報告が1.2%（26例）みられた。

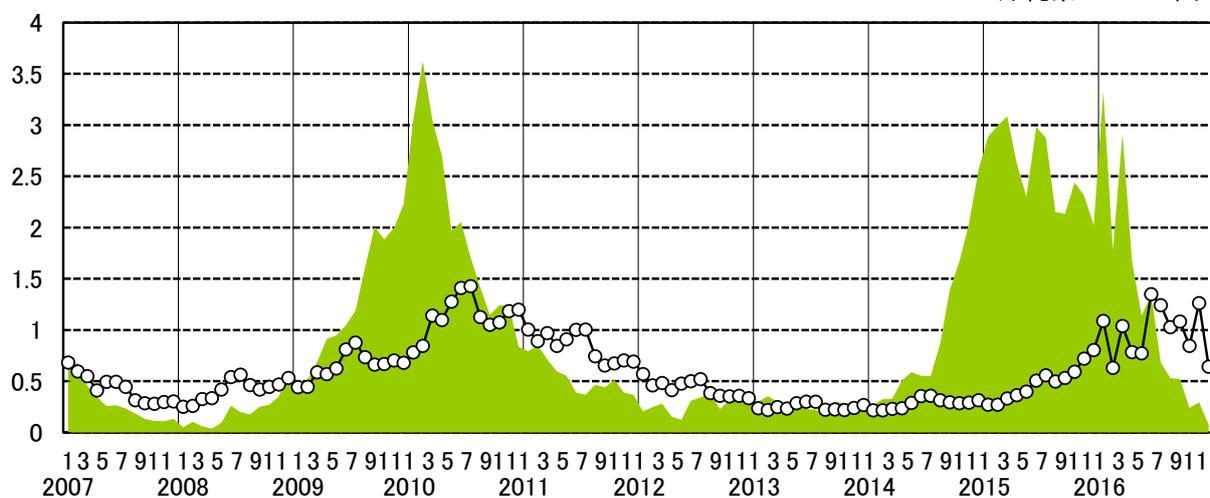
流行性耳下腺炎 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国

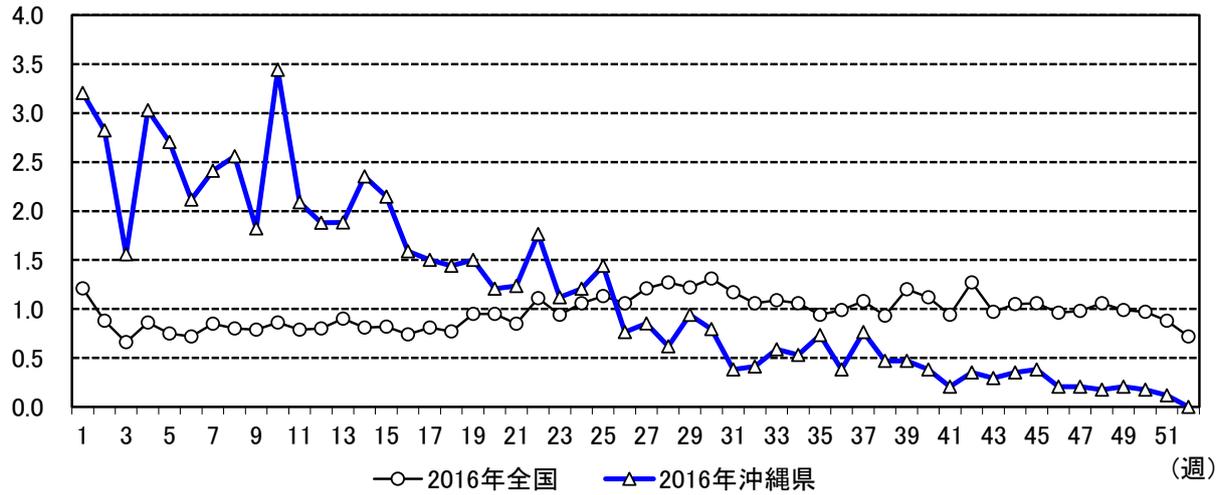


シーズン別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1,873	472	472	1,672	4,647	2,101

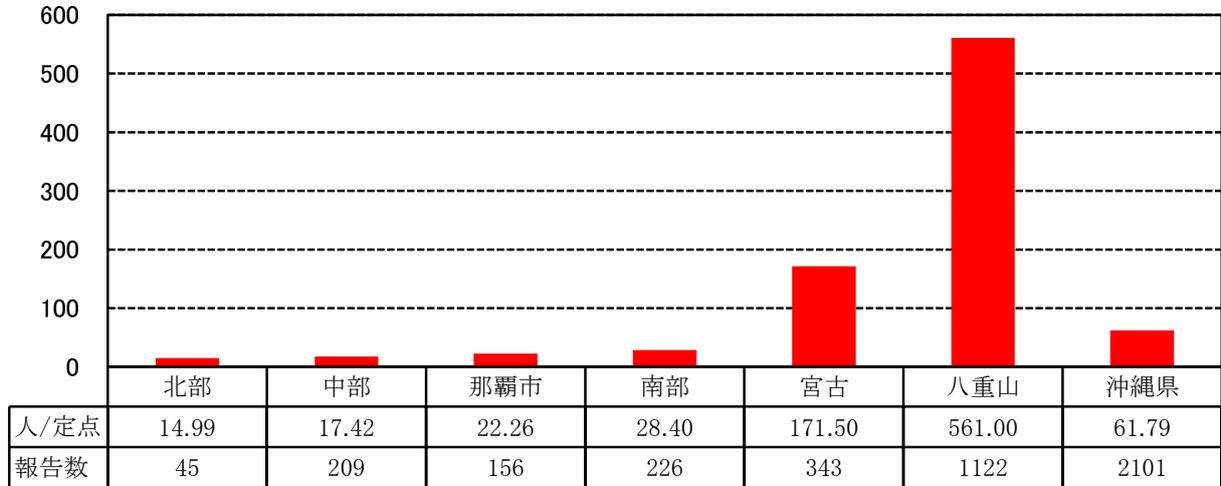
(人/定点)

流行性耳下腺炎 定点当たり報告数



(人/定点)

保健所別発生状況（報告数及び定点あたり報告数）



年齢階級別割合（沖縄県）

